

阿波徳島の郷土芸能を伝承する



平野治彦 連長(50)

江戸っ子連：昭和45年発足

阿波おどり歴：39年
連長歴：6年
姉妹連：徳島・阿呆連

踊りを始めたころのエピソードは？

中学生のころから友人たちと飛び入り専用のびっくり連で遊んでいたようなものだった。その後、父親の縁で「あさがお連」(現兎妙連)に。しのぶ連の粕谷連長が同時期にいたね。その後、友人の誘いもあって江戸っ子連に。入連の際に杉谷連長(現江戸っ子連会長)と面接があったけど、あれにはびっくりしたなあ。

阿呆連とのお付き合いについて

まさに師匠と弟子。30年のお付き合いの中で今も昔もいわれるのは「阿波踊りは稽古ごとである」「筋と道理を外したら、それは阿波踊りではなくなる」ということ。とにかくいろいろな教えが血となり肉となっている。お稽古ごとは本人次第だから、経験のない人や下手な人だって稽古を積みば上手くなる。上手な人が稽古を積みば、もっと上手くなる。一方で、上手な人も稽古を怠れば下手になる。単純明快でしょ。だけど、そこに苦しさがあり難しさがあり楽しさがあり喜びがあるのが阿波踊りだと思う。

そして、当たり前のことだけれど、弟子として「徳島の郷土芸能としての阿波踊りを伝承し続けること」が、何よりも大切なこと。連員はもちろん、連長の私自身も弟子として修行し続ける必要がある。

連長として、連の展望は？

「阿波徳島の郷土芸能を高円寺の地で伝承し、実践する」といい続けることが重要。「半世紀の重み」を今の人たちが次代へ伝承してくれることを願っている。

最初は組織作りから

踊りを始めたころのエピソードは？

初めて踊ったのは小学校に入ってすぐのころ。まだ志留波阿連はなく、のびゆく連で踊っていた。当時は衣裳もなく、自前の浴衣で踊っていたね。小学4年生のときに、シルバー商店街にシルバー連ができて入連した。昭和50年ごろ、当時の国鉄がシルバーシートを作ったのをきっかけに、連名を漢字に変更した。今ではこの名称なのに子どもをたくさん連れて行くから、皆に驚かれて面白いね。

みやび連との付き合い方

平成元年から、徳島のみやび連と姉妹連としてお付き合いさせてもらっている。徳島でも珍しい女性連長さんで、男性にはない気遣いがある。特に着付け、立ち振る舞い、踊りに対する考え方などについて、たくさんのことを学んだ。だからうちの着付けは誇れると思っている。でも、それ以上にみやび連のもつ息の合った踊りと鳴り物が最大目標だ。

連、また連長としての展望は？

連にもめ事があって連員が激減してしまったときに、連長を引き継いだ。今思えば存続の危機だったね。連長として最初にやったのは組織づくり。この組織が、今は上手く機能している。人数も当時の倍近くになったしね。

志留波阿連も発足以来37年。その間には、経済的な部分を含めているいろいろな人たちに支えられた。こうした背景を十分に踏まえ、目標にしていることを伝承し、連を発展させていける人に次を譲りたいと思っている。

継続は力なり。高円寺の阿波おどりのために連として精一杯に活動し、次代に伝えていきたい。

阿波おどり歴：39年
連長歴：12年
姉妹連：徳島・みやび連

藤巻剛彦 連長(45)

志留波阿連：昭和45年発足

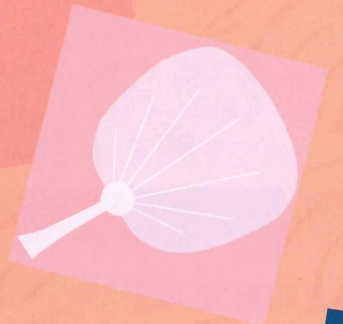
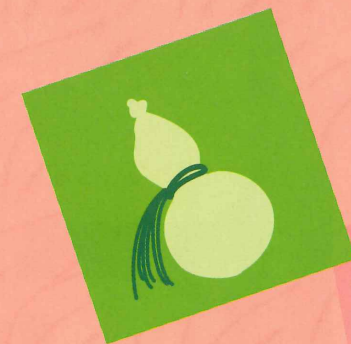


阿波おどりを100倍楽しむ！

阿波おどりを全く知らない人でも、知って得する、楽しめるコーナーです。

よく尋ねられる質問や衣裳の知識、鳴り物の音や楽器に対するこだわりなどなど、阿波おどりの現役踊り手が、丸ごと教えちゃいます！

今度の阿波おどり見物は、100倍楽しむこと間違いなし！



高円寺阿波おどり Q&A

高円寺駅
KOENJI STATION

曲のレパートリーはどのくらいあるの？

「よしこの」の通称でも知られる民謡の「阿波よしこの節」を基本とし、各連3パターンほどこの曲を展開させています。メロディを奏でる笛の旋律をお聴きください。

作曲はするの？

基本となる「よしこの」から別の曲へ変わることはありません。ただし、舞台演出などで多少アレンジし、阿波おどり以外の民謡や童謡を取り入れることもあります。

高円寺阿波おどりのお土産はあるの？

高円寺阿波おどりではキティちゃんストラップ、記念誌、手ぬぐい、風呂敷、Tシャツを発売しています。詳しくはホームページをご覧ください。

連の名前を知る目印ってあるの？

連の顔ともいわれるものが「高張提灯」。連の名前がもっとも大きく書かれ、連の先頭に位置するので目立ちます。混雑時には連員が迷わず移動できる目印にもなるという、大切な役割を果たしています。またお目当ての連を探すには、配布される運行表や、振興協会ホームページで確認できます。

どんな人たちが踊っているの？ どんな繋がりがある人たちのなの？

家族、友達の紹介、各連のホームページから応募など、始めかたもさまざまです。子どもに学生、社会人、最高年齢は80歳までと、職業も年齢も違う人たちが阿波おどりを通じて仲間になります。住まいも高円寺とは限りません。

掛け声は何といってるの？

パターン1 「ヤットサー ヤットヤット
ヨイサー ヤットサー
ヤットサー ヨイサー
ヤットサーヤットサー」

パターン2 「ヤットサー ヤットヤット
イチカケ ニカケ サンカケテ シカケタ踊りはやめられぬ
ゴカケ ロクカケ シチカケテ ヤッパリ踊りはやめられぬ
ヤットサー ヤットヤット」

このほかにもいくつかあります。何といってるか？よ〜く聞いてみてください。

踊りのパターンは何種類くらいあるの？

演舞場を流す「流し踊り」と、舞台用の「組み踊り」などがあり、毎年違う演出をつくっています。各連とも、基本の流しパターンにも毎年新しい演技を入れこんでいますので、数字では表せません。

男踊りと女踊りの違いは？

男踊りは腰を低くして踊り、女踊りはひざを曲げる程度で、手を高く上げ、下ろすことはありません。また見た目にもまったく違う踊りです。女性には男踊りのパートもあります。

ノリノリで踊って応援して、瞬く間に通り過ぎる阿波おどり連。意外と知られていない部分をまとめて一気にご紹介。お答えいたしますは、もちろん高円寺阿波おどりの現役踊り手の面々です！

どうやって連に入るの？

お気に入りの連が決まったら、衣裳を着ている人に声をかけてもよし！
振興協会に問い合わせてもよし！
P60～68頁の各連の連絡先へお問い合わせくださるのがスムーズ！

手足の動きはどうなっているの？

右手右足、左手左足が同時に前へ出る「なんば歩き」が基本です。歌舞伎や浮世絵でよく見られる歩き方です。阿波踊りがどうして「なんば歩き」になったかは定かではありませんが、「なんば歩き」は体のよじれがなく、着物を着ていてもはだけにくいので、昔はみんな「なんば歩き」だったといわれています。

シーズンオフの活動もあるの？

連協会所属連は高円寺阿波おどり以外にも、各地の阿波踊り大会をはじめ、祝賀会、結婚式などのアトラクションとしての出演もあります。オフシーズンでも活動し、またボランティアで老人ホームのお祭りや小学校で踊りを披露することもあります。高円寺阿波おどりが終わったあとの9月から練習を始める連もあり、年間通しての活動を行っています。

見ているだけで踊りたくなったら参加できるの？

連に所属していない方は、演舞場に立ち入ることはできません。お気に入りの連に、声をかけて、来年はいっしょに踊りましょう！！

賞を受賞する連ってあるの？

連協会以外の一般参加連を対象に、都知事賞をはじめいろいろな賞があり、最終日に表彰式を行っています。一般参加連は受賞を目標に、一生懸命練習されています。

座ってゆっくり見られるところはありますか？

高円寺阿波おどり賛助会員、協賛者の方には、謝礼として演舞場の枚数券を差し上げています。また阿波おどり当日の日中、連協会所属連がセシオン杉並で舞台踊りを披露します（有料）。屋外の流し踊りとはまた違った、舞台踊りをゆっくり観賞できます。セシオン杉並での舞台踊りや、賛助会員、協賛者についての詳細は振興協会ホームページにお問い合わせください。

トイレはどこにありますか？

近隣の公衆トイレのほか、随所に仮設トイレが設置されます。場所の詳細は配布されるパンフレットや振興協会ホームページで確認できます。

阿波おどり大会のあとのゴミ掃除はどうしているの？

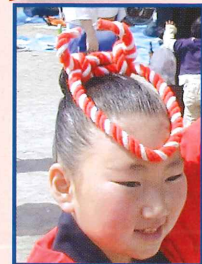
阿波おどり大会と翌朝には、連協会所属連の連員も清掃を行っています。安全で清潔な阿波おどり大会のために、ゴミは指定の場所へ分別して捨てるように、ご協力ください。

9月ごろJR高円寺駅に写真が飾られますが、誰でも応募ができますか？

毎年、高円寺阿波おどりフォトコンテストが開催されています。応募方法や受付期間は振興協会ホームページでご確認ください。

阿波おどりの衣裳

男踊りの衣裳



ねじりはちまき

はちまきをねじった状態で形成してあります。そのまま頭の上に乗せてヘアピンで固定。中に針金の芯が入っているものもあります。



ほっかむり

手ぬぐいをたたみ、頭をすっぽり包んで、こめかみの位置からねじって結びます。



法被

以前は綿素材が主流だった法被も、今はナイロン素材のものが増えました。デザインや色づかいにも連の個性がでています。



浴衣

法被と同様、各連さまざま。すそをはしょって踊りやすく着つけます。

角帯

腰骨の位置に「貝の口」と呼ばれる締め方で結ぶのが一般的。最近では衣裳同様、連名を入れたオリジナルの帯を使用している連もあります。

パッチ

股引き(ももひき)、はんだとも呼ばれるお祭りパンツ。最近では短パンで代用する連もあります。

はちまき



踊り衣裳

うちわ

手踊りをいっそう華やかに見せる小道具です。自分の手に合うよう、うちわ全体を反らしたり、柄の部分を短くしたりなど、工夫する人もいます。



踊りの小道具



弓張り堤灯

うちわと同様、踊りをダイナミックに見せる小道具です。持ち手が手になじむよう、ヤスリで削ったり、自作したりする人もいます。

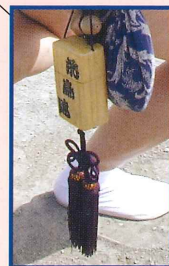
さらし

1反が約10メートルもある綿素材。体格に合わせて半反だけ巻く人もいれば、体にタオルを当ててから巻いて、調整する人もいます。最近では腹巻きで代用する連もあります。



印籠、小袋

いわばアクセサリーのひとつで、小銭や各自の持ち物を入れて、帯に通しています。



踊り足袋

ゴムの裏地がついた阿波踊り専用の白足袋です。踊り方が激しいと足袋の消耗も早いために、2枚重ねて履く連もあります。

女踊りの衣裳

浴衣や和ものブームもあって、身近に感じるようになった阿波踊りの衣裳。よく見れば独特の着こなしや、連や個々によるこだわりも見つかります。見る楽しみが倍増しますよ!

編笠をかぶるときの髪形



笠あんど (手作り)

笠あんどは編笠をきれいにかぶるための必需品。市販品もありますが、自分の頭の形や高さに合わせて厚紙や発泡スチロール、タオル、ストッキングなどを使って手づくりするのが一般的です。

笠っ人 ベっぴんちゃん (天狗連谷岡昭一作・知的所有権協会登録)

髪をひとつにまとめて高い位置でだんご状にし、ネットに入れるのが基本。ショートカットの人はターバンで髪の毛を隠します。髪飾りで密かに華やかさを添えている連も。



編笠のかぶり方



編笠

笠あんどを入れて編笠をかぶり、ひもをあごにかけます。垂れたひもを後ろで交差させてあごにかけたひもにからめ、じゃまにならない位置で結びます。編笠を傷めない材質にこだわり、笠ひもを手づくりしている連もあります。

手甲

ひじ側はずれないようにゴムで絞っており、手首は広がらないようにホックで留めてあります。

帯

半幅の黒帯で、おたいこ結びが基本。なかには斜めにつくる連もあります。帯あけ、帯締めとも結びかたや色もさまざま。いずれも普通の着物と同じものを使用しています。



踊り衣裳・着物

今はナイロン素材の衣裳が一般的。着つけの仕方やデザイン、色も連ごとにさまざまです。



女性の後ろ姿が色っぽく見えるのは、着物の襟がきれいにぬかれたうなじです。前はコーリンベルトと呼ばれるもので留め、後ろは浴衣の中心にひもを縫いつけ、別のひもを通し引張ることで、着くずれを防いでいます。

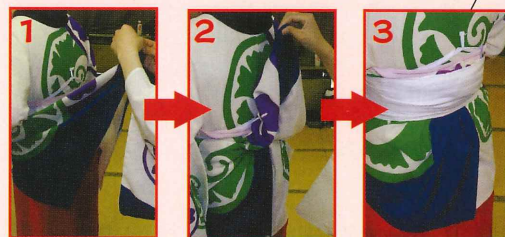


片肌脱ぎ

片袖を一枚脱いで襦袢を出す連もあります。脱いだ袖は帯に挟み込みます(写真左)。

おはしより

着物のすそを後ろにたくし上げ、帯の中に隠します。



印籠、小袋

アクセサリーのひとつです。男性が下げるものに比べて、小さいのが一般的。小物袋は化粧セットや小銭などの持ち物を入れ、帯の間に通します。



すそよけ

連ごとに踊り衣裳・着物の色に合わせた色のすそよけをつけます。レーヨン素材が多く、透けたり、はだけたりして足が露出しないように、2枚のすそよけを履きます。また、足が上りやすいよう、ストッキングを履いてすべりをよくしています。



足袋

着物用の白足袋です。つま先立ちで踊り続けるため、鼻緒が当たる部分にはコットンを詰め、テーピングをしています。足の甲、幅が微妙に違う足袋を選んで歩く人もいます。

下駄

舞台用も屋外用と同じ黒塗りの利体下駄を使用しています。前の歯の部分は自転車のタイヤのゴムやテープをつけて、滑らないように加工します。

屋外用



舞台用



鳴り物の構成

音へのこだわり

しのぶ連 小林義明さん

昔は人数が少なかったため、ひとりで1.5～2人前の音を出そう！と練習しました。その結果たたき方そのものが個性となり、音を出すための体の動きそのものが現在の型になっています。笑顔を含め、とにかく自分が楽しむこと。それがお客さまにも伝わり、その拍手がパワーの源となって、さらに大きな音を出しているのです。



江戸っ子連 佐藤孝次さん

締太鼓を始めて10年余り。技術はなかなか追いつきませんが、40年近く踊り続けていた経験から、私は踊り手の気持ち、お客さまの気持ち、さらに鳴り物の気持ちがひとつになるように、心で太鼓をたたくよう意識しています。



大太鼓

笛

飛鳥連 早川正洋さん

おなかの底から指先に至るまで、「笛」を意識しています。やわらかく澄んだ音色が、遠くまで響くようイメージして、体の力を抜いてゆったりとした気持ちで、旋律を奏でます。



鉦

志留波阿連 藤巻剛彦さん

20年ほど前までは、少ない人数で大きな音を出さなければいけない事情から、6尺5号の大きさの鉦を使用していました。鉦と太鼓の規則的なリズムでは踊りも味気ないものになってしまいました。鉦のメロディーと合いの手を入れる締太鼓のリズムで踊ってほしいので、現在は小さい5寸（約15cm）の鉦を使っています。



締め太鼓

飛鳥連 飯岡克己さん

三味線を弾くうえで一番心がけているのは、リズムを正確に刻むことと間の取りかたです。二拍子の中でいろいろなパターンを組み合わせるにより、メロディ全体に変化が生じます。タイミングよくすくいパチとハジキを入れると、一層奥行きが広がり、ゆったりとしたキレのある音が出るのです。



三味線

天水連 岩波則彦さん

先頭の高張提灯まで届くように、まずは自分がいっぱい楽しみながら、腿と腰を使って全身でたたいて音を出します。鳴り物は鉦の響きによってさらに面白みが出て、それが踊り子に伝わり、踊り自体もノってくるのです。



樽

葵新連 池原淳さん

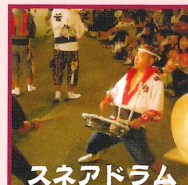
太鼓と違って樽は、出来た瞬間から音の良さあしが分かるもの。約20年間、樽を1年に数個ずつ作ってきましたが、気に入ったものは2個しかありません。「もっといい音に巡り会えるはず」と、いつも何かをたたいて練習しています。



大鼓(おおかわ)

江戸っ子連 佐藤俊さん

大鼓はほかの打楽器とはリズムが違うため、ひとりがたたいているにも関わらず、非常に音が通ります。左手で鼓のひもをしっかりと握り、右手でもった張り扇を使って音を鳴らします。一番ポイントとなるのは、右手首の使い方。むちのように鋭くしなやかにたたかないと、いい音が出ません。



スネアドラム

答作連 小川正宏さん

ほかの連では使用していないスネアドラムを取り入れています。その存在は、三味線や笛の音色にたとえられると思います。鉦と大太鼓の間をかいがいしく縫うように取りもち、さらに締め太鼓との調和を図りつつも、自己の音域を主調することを心掛けています。



竹

江戸っ子連 平野治彦さん

竹の音は固く乾いた音色であるため、とくに三味線や笛とは極めて調和しにくい音です。そのほか音色を邪魔することなく、下駄の音に合わせてリズムを刻み、鳴り物の調和を計ります。むしろ、演技のきっかけとなるアクションポイントの音として、重要視しています。

道具のこだわり

連ごとに生のお囃子がつくのも、阿波踊りのぜいたくな特徴のひとつです。踊り手が踊れるのも、このお囃子があってこそ。音や楽器に対するこだわりと、その世界をのぞいてみましょう。

小林義明さん(しのぶ連)

私の太鼓は普通よりも大きい特注品です。それでも動きが軽やかなのは、肩掛けに工夫をほどこしているから。自分に合う肩掛けの長さを研究したら、あごが乗るくらい短くなりました。また体の揺れに耐えられるように、金具を溶接して動かさないようにしています。さらに錆びないように、金属をステンレスのものに変えました。使った後は消臭剤をかけ、陰干しをします。また100個以上もある太鼓のビスを、ひとつひとつヤスリで磨き、錆びないようにコーティングをしてメンテナンスを施しています。パチは黒檀専門家具店の特注品。パチも重さと長さのこだわり、使いやすいようグリップエンドが野球バットのような形状で、軍手をはめて、すべり具合を調整しています。



佐藤孝次さん(江戸っ子連)

とくにこだわりをもってはいませんが、しいていうなら、締めひも「しらべ」です。私が愛用しているのは白木の太鼓で、縁の皮も胴も「しらべ」も白。「しらべ」の材質にはナイロン、綿、麻と3種類ありますが、ナイロン、綿は締めやすく、値段も安く長持ちしますが、締め具合が甘いのです。それに比べて麻は持ちが悪く高価ですが、よく締め、一度締めると緩みません。当然のことながら、自分でたたく太鼓の調整は、自分で行います。舞台や室内では音が高くないようにあまり強く締めません。



藤巻剛彦さん(志留波阿連)

鉦は金属の鋳物であるために、同じものでも音程が違います。私は音の高さに対するこだわりはあまりありませんが、縁の部分の響きの良さを重要視します。鉦のパチである撞木(しゅもく)は鹿の角でできていて、鉦の大きさに合わせて購入します。また撞木の柄には、剣道の竹刀を利用しています。通常は竹材を使うだけですが、竹刀はアルカリ溶液で煮出しているために、油がにじみ出ないという長所があります。撞木の穴は棒ヤスリで広げてから、竹を取りつけます。



岩波則彦さん(天水連)

11年前に連の個性を出そうと、飾りではなく本当にたたける、限界まで大きい鉦を注文し、以来、その15kgある鉦を使用しています。アングルは鉄パイプを切り、自分で作りました。そして、たたく前には必ず磨く！出演のときも控室に入って、最初にすることは、鉦磨き。撞木はトンカチや角の形そのままのものなど、踊る場所、出すべき音の大きさによって変えています。鉦が大きいからといってがむしゃらにたたくのではなく、これらの撞木を転がしながら音を出すのです。



早川正洋さん(飛鳥連)

私の相棒は、連から借りている6本調子の笛です。今の笛を使って5年が経ち、最近ようやく音が抜けて、いい状態になってきました。今の私にとってこの笛は、最良のパートナーです。笛の音色はそのときの温度や湿度によって変わるため、笛が乾燥し過ぎているときは、演奏前にわざと湿らせることもあります。また演奏後は、笛の中の湿気をガーゼでふき取るケアも怠りません。



飯岡克己さん(飛鳥連)

パチ(写真右)は先がやわらかめの方が弾きやすいのですが、私は少し硬めのものを使用しています。三味線を身体につけるための道具(写真左)は使いやすいように、すりこ木を自分で加工して作っています。また、三味線の皮は湿気に弱いので、汗がつかないように、身体と三味線との間に厚手のプラスチック板を挟み、弾いている最中からメンテナンスを心掛けています。



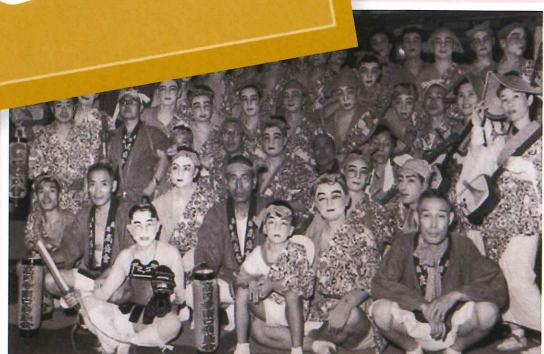
池原淳さん(葵新連)

大切な樽が割れないように、工夫しているのがパチの素材です。朴(ほお)、桐、桜、杉、桧(ひのき)などを試し、今のところ桧がベスト。購入先は仏壇屋です。桧は会津に頼んだこともあります。パチは年間20～30対ほど消耗してしまいます。樽は千葉県の大樽職人にも作ってもらったこともあり、現在もなお、いい音の出る樽を捜し求めています。



衣裳の 変遷

男踊り



昭和32(1957)年
「ばか踊り」はそろいの浴衣で

町会で祭礼用に作った浴衣を着ていました。第2回目では照れ隠しのための白塗りにほっかむりのスタイル。浴衣の片肌を脱いだ、威勢のよい青年たちの姿も見られます。



昭和35(1960)年
みこし風スタイルで

いわゆる阿波おどりに、まだほど遠いこのころ。今では見ることのできない、男性のたすき掛けや片肌脱ぎのかっこうで踊っています。祭りといえば、みこしを担ぐときのスタイルが妥当と思われていたのでしょう。



昭和42(1967)年
粋な法被姿が登場

初めて高円寺に法被姿が登場したのは、昭和42(1967)年ごろ。徳島に倣おうという姿勢を軸に、少しだけ東京スタイルが加わり、やがてそれが定番化します。高円寺では、花菱連が、初めて衣裳に法被を取り入れました。



昭和50~60(1975~1985)年ごろ
色や小物にもこだわりが

高円寺阿波おどりが夏祭りとして定着し始めてきたころ。各連に団塊ジュニアたちが、こども法被姿となって登場してきた時期です。衣裳もカラフルになり、小物にもこだわりをもち始めた時期でもあります。



平成元(1989)年~現在
機能性を備えた衣裳に

それまで綿素材が主流だった浴衣や法被も、ポリエステル製が多くなりました。綿素材の衣裳も、以前より薄く、軽く、乾きやすくなっています。連日出演が続く踊り手にとって、夜遅く帰宅してから洗濯した衣裳が、翌朝に乾いていることが必須です。近年ではアイロンをかけなくても、シワができない生地も取り入れられるようになりました。各連とも個性のある柄や色使いの衣裳で、お客さまを楽しませてくれます。

女踊り

昭和32(1957)年に始まった高円寺阿波おどり。時代の流れとともに浴衣のデザインや着付けも大きく変化しています。



昭和32(1957)年
そろいの浴衣の娘たち

お母さんたちが毎年、祭礼用の浴衣を作っていたころです。編笠ではなく、手ぬぐいをかぶっている子どもたちの姿が見られます。



昭和42(1967)年
商店街の統一衣裳

商店街、町会ごとの阿波おどり連が誕生し始め、そろいの浴衣を着るようになります。しかしまだこのころは、すそをはしよって襦袢を見せることなど、考えも及ばなかったことでしょう。それでも浴衣を、少しだけ短く着ている姿が見られます。



昭和45(1970)年ごろ
独立連の衣裳

徳島へ赴いて本場の阿波踊りを目にする人が増え、「黒朱子の襟をつけ、後ろにすそをはしよる着付け」を知ります。独立連は連の特徴を生かした衣裳を作り始め、商店街や町会の浴衣は見かけなくなります。



昭和55(1980)年ごろ
襦袢が衣裳の一部に

襦袢を下着としてではなく、衣裳の一部として認識し始め、片肌を脱いだり、ひざ上まではしよったりするのが当たり前になりました。写真を見ると独立連ができ始めたころより、編笠を高くかぶるようになってるのがわかります。このころになると徳島との交流が盛んになり、衣裳を真似るだけでなく「魅せる踊り」を追及し始めます。



平成元(1989)年~現在
もっと美しく!

連ごとにこだわりのある衣裳や着付けの工夫が凝らされ、連の個性が光ってきました。編笠は広がらないよう閉じ、後ろを高くしてかぶるようになりました。踊りとともに衣裳や着付けも年々洗練されてきたのは、徳島から学んだ結果と小さな工夫の積み重ねでしょう。衣裳も踊りも伝統を踏襲しつつ、今もなお進化し続けています。

高円寺阿波おどり連協会の紹介

高円寺阿波おどり 連協会の成り立ち

1977(昭和52)年、東京阿波振興協会(NPO法人東京高円寺阿波おどり振興協会の前身)が設立され、主催母体としての組織は確立された。現場サイドでも連同士の親睦や情報交換の集いがほしいとの気運が高まり、1981(昭和56)年高円寺阿波おどり連協会が発足した。日常的に活動し、かつ高円寺を中心に本部を置いていることを資格として17連でスタート。現在は26連で構成されている。

あおいしんれん

葵新連

連長:森田昇栄 創立:1967(昭和42)年
連員:120名
本部:杉並区高円寺南4-6-2 電話:03-3311-4570

第1回目の「高円寺ばか踊り」から参加した当時の青年部のなかでただひとり、今でも現役で踊り続けているのが葵新連・森田昇栄連長です。今年は創立40周年という葵新連にとっても節目を迎え、また連長が傘寿(80歳)を迎えるめでたい年でもあります。昨年は徳島葵連から独立し、新生葵新連として旅立ちの年でした。葵新連は阿波踊りの伝統を守りつつ、常に新しい踊り、独自の演出、構成を考えさらなる前進を心掛けてきた連です。赤い法被の小学生による少女隊は、今から23年前に高円寺はもとより、徳島にもなかった子どもがうちわを振る集団を作ろうとの思いで結成されました。1989(平成元)年には徳島郷土文化会館の選抜大会に葵新連の少女隊として出演し、喝采を浴びました。このように葵新連は、お客さまに楽しんでいただける連、そして魅せられる連を目指し、これからも阿波踊りの発展のため、邁進してまいります。



あすかれん

飛鳥連

連長:富澤武幸 創立:1970(昭和45)年
連員:130名
本部:杉並区高円寺南4-25-9 電話:03-3311-8396
URL:<http://asukaren.hp.infoseek.co.jp/ASUKAREN.HP/>

高円寺阿波おどりの発足に携わった、高円寺パル商店主らにより結成されました。連名は豊葦原の瑞穂の國の飛鳥地方から。日本の琴線を大切に、今日よりも明日に香れと名づけられました。本場徳島・娯茶平の姉妹連として、阿波踊り3大主流のひとつ、娯茶平流を伝承しています。

男踊りは腰を低く下ろし、丁寧な引き足と漁師が投網を打つしぐさを取り入れた「網打ち」が特徴です。女踊りは軽い前傾姿勢としなやかな足運び、指先の動きと「ため」で、女性ならではの「情」を表現します。鳴り物は三味線と笛を中心としたゆったりしたリズム。締め太鼓、大太鼓の打楽器は、踊り手の背中を押すように音を響かせます。連員は職業、住所、年齢など千差万別。それぞれが本業を一生懸命行い、阿波踊りにも真剣に向き合う。これが飛鳥連です。



いろはれん

いろは連

連長:松永治通 創立:1972(昭和47)年
連員:70名
本部:杉並区高円寺北3-23-11 電話:03-3337-9782
URL:<http://iroharen.fc2web.com/>

「自分たちに勝負を賭けなさい」「いつも一番を目指しなさい」初代連長・上村明男が残した言葉です。いろは連はそんな上村明男の阿波おどりにかける熱意と情熱によって、1972(昭和47)年に誕生いたしました。以来34年間、いろは連は初代の言葉を連員全てが胸に刻みながら、地元高円寺は元より、都内及び近県での阿波踊りの普及と指導、さらに連の育成など、積極的に活動を続けてまいりました。そこに高円寺阿波おどりがあ限り、いろは連は今後も熱意と情熱の阿波踊りを繰り広げてまいります。

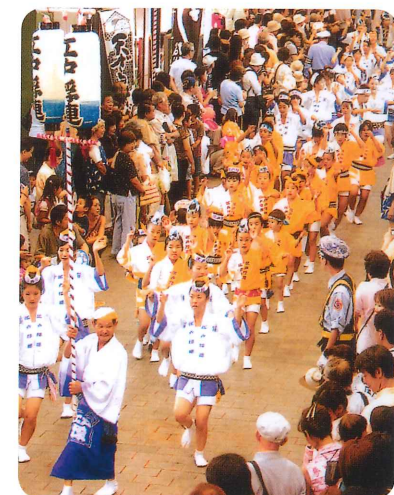


えどうきれん

江戸浮連

連長:河原一 創立:1967(昭和42)年
連員:45名
本部:杉並区高円寺南3-58-27 電話:03-3311-8061
URL:<http://www.geocities.jp/edoukiuki/>

高円寺パル商店主、子弟、従業員で構成された「商盛連」がルーツです。幾度かの連名の変遷を経て、1967(昭和42)年「江戸浮連」となり、現在に至っています。鳴り物は基本の2拍子でしたが、徳島の連「六右衛門(濱田祥連長)」と出会い、そのリズムを聞き衝撃を受け、早速取り入れることにしました。それから10余年ようやく背中が見えてきたような気がします。踊りは小学生からベテランまで、その年齢にあった個性ある踊り方を指導するよう心掛けており、若い連員が中心となって組み踊りの練習に取り組んでいます。大人の紫色の浴衣、子どもの黄色の法被、ピンク色と黄色のうちわはとくに照明に映えたときのことを考慮し製作しました。



えどかぶきれん

江戸歌舞伎連

連長:中村利雄 創立:1995(平成7)年
連員:95名
本部:杉並区梅里2-7-15-102 電話:03-3313-5916
URL:<http://kabuki.sakura.ne.jp>

本場徳島県の歌舞伎連の姉妹連として1995(平成7)年に結成、衣裳も全く同じもので活動しています。特に男踊りの衣裳はグレーの法被に黒のパッチ、頭には手ぬぐいのほっかむりをして「ネズミ小僧」と呼び、大切にしています。お囃子は阿波踊りに無くてはならない笛、三味線に力を入れています。お囃子の信条は「まろやかな和音」。踊りのお囃子ですが、聞く人に賑やかな中にも品のある、たおやかな「メロディー」を楽しんでいただけるよう心掛けています。また奴踊りは、本場でも高い評価をいただいている自慢の出し物のひとつでございます。どうぞ私たちの踊りをお楽しみください。当連は徳島阿波おどり保存協会にも所属しております。



えどっこれん

江戸っ子連

連長：平野治彦 創立：1970（昭和45）年
連員：80名
本部：杉並区高円寺北3-23-8 電話：03-3337-4133
URL: <http://members.jcom.home.ne.jp/edokko-ren>

1971（昭和46）年、高円寺北口の銀座商店街（現純情商店街）の地元有志により結成されました江戸っ子連は、本場徳島・阿波おどり振興協会の雄・阿呆連の姉妹連として、正調阿波踊りを伝承しております。「阿波踊りは辛く、苦しいものである」「阿波踊りは集合の美である」「阿波踊りは稽古ごとである」「筋と道理をはずしたら、それは阿波踊りではない」阿呆連からいただいた、厳しくも温かな言葉です。その言葉を胸に、今後もその師「阿呆連」の弟子として、ここ高円寺において徳島の郷土芸能阿波踊りに、そして阿波の心と汗にこだわり続けます。



えふあいえいれん

えふあいえい連

連長：渡辺次郎 創立：1977（昭和52）年
連員：60名
本部：中野区野方2-38-9 電話：03-3385-8140

今年で連結成29年。英会話学校の生徒たちで始まった阿波踊り連も、今では「正調阿波踊りにこだわる連」に成長してまいりました。正調阿波踊りの基本を守り続け、弓張り提灯を握り、威勢よく踊る男踊り、女性の美しさとしなやかさを踊りで表現する女踊り、無邪気な笑顔を絶やさず元気いっぱい踊る子ども踊り、笛と三味線の音やメロディーを大切に、メリ張りのある鳴り物を目指す鳴り物陣で構成されております。

各連員それぞれが「踊りと鳴り物の融合」をテーマに高い意識を持ち、1年を通して練習に励んでおり、ここ数年、合宿を実施して友情を深め、技術向上に力を入れております。連結成30周年を目前に少しでも心身ともに成長し、たくさんの皆さまに阿波踊りの素晴らしさを伝えられればと願っております。



きくすいかいきくすいれん

菊水会菊水連

連長：浅賀信夫 創立：1964（昭和39）年
連員：150名
本部：杉並区高円寺南3-1-3 電話：03-3311-8428
URL: http://www7a.biglobe.ne.jp/~kikusui_ren/

連訓：王道を歩み、和をもって尊ぶ

連志：阿波おどりの楽しさを幅広く伝道する。

都内および、近県の各地の阿波踊りやイベント多数参加。過去に欧米をはじめとした海外出演も多数参加。

1999（平成11）年香港公演。

2000（平成12）年ルーマニア公演。

受賞歴：1971（昭和46）年第15回高円寺阿波おどり人気コンテスト第一位。



こけさくれん

苔作連

連長：布澤茂壽 創立：1974（昭和49）年
連員：40名
本部：杉並区高円寺南4-24-8 電話：03-3314-0814

最高の連を目指しての練習・・・魅せて聴かせて躍らせる、それが苔作。一般的阿波踊りの進化形。でもまだ進化中。高円寺の阿波おどりを今のようなお囃子をもって来たのは苔作。デカイ鉦にデカイ太鼓と、ついでにデカイ態度!?!で和洋折衷、スネアも使用!

女踊りは華麗に舞う花のように優雅に、男踊りは短髪に口ひげで限界までに腰を落として激しく踊る。見る人たちをひきずり込み、もっと見たいといわせるイキオイで踊っている。朝も夜も関係なく、体力の続くかぎり踊り続ける。真冬も熱帯夜に変える厄介物。見逃したら損をする。瞬きもせずに凝視するべき価値あり。



しのぶれん

しのぶ連

連長：粕谷俊春 創立：1972（昭和47）年
連員：92名
本部：杉並区大宮1-22-35 電話：03-3313-4964
URL: http://www.geocities.jp/shinobu_ren/

地を這うが如く鳴り響く大太鼓、何処までも高く鳴り渡る鉦、そしてそれらを引き締める締め太鼓、ビートの聴いたお囃子は、聴いた者の血を沸かせます。そしてそのお囃子のもと、扇を自由に操って華麗に舞う女踊り。威勢よく、ときに優雅に舞う男踊りは、見た者の心を躍らせてます。

私たちしのぶ連は1972（昭和47）年に結成しました。踊りは正調阿波踊りを追い求め、お囃子は独自のリズムをどこまでも追及してきました。阿波踊りが大好きな阿呆たちが集まったしのぶ連は、今日も熱い夏を目指して大人も子どもも練習に励んでいます。これからもより新しいアイデアを取り入れ、そして古き良き物を追求した阿波踊りで、多くの皆さまに感動を与え続けてまいります。



しゃらくれん

写楽連

連長：中川一廣 創立：1980（昭和55）年
連員：152名
本部：杉並区成田東4-13-15 電話：03-3311-6008

名前の由来は、世界浮世絵師・東洲斎写楽。その奥の深さに魅せられ、共通していると感じた私たちは、連名を写楽連としました。阿波踊りに魅せられる私たちは、毎年「初心忘れず」を合言葉に日々努力をしております。踊る楽しさは大人も子どもありません。写楽連は笑顔の交歓ができる阿波踊りを目指している、そんな連です。世界陸上大会日本開催時に、世界のカール・ルイスが阿波踊りの輪の中に入ってきて、楽しそうに踊っていたその笑顔は、私たちにも感動をも与えてくれました。人の和を大事に、そして大切に。それが写楽連です。



しるばあれん

志留波阿連

連長：藤巻剛彦 創立：1970 (昭和45) 年
連員：100名
本部：杉並区高円寺南4-7-5 電話：03-3314-4684
URL：<http://www.sirubaa.jp/>

阿波踊りの衣裳をじっくり見たことはありますか？ 普通に着る着物と、何かが違うのにお気づきですか？ 1番違うのは女踊り。志留波阿連ではまず右肩と左肩の色が違います。足元も裾の方がピンク、上の方がブルーといった具合です。ピンク色の部分は普段は着物の下に着ていて人目に触れることのない襦袢。片肌を脱ぎ、短く端折ったブルーの着物とピンクの襦袢が、目に鮮やかなコントラストを作り出します。後ろ姿もおもしろく、脱いだ袖が帯にかけ、リズムと共にひらひらと舞います。黒の半巾帯はたれがななめにキリリと三花結びで、真っ赤なうちわがアクセント。笠の下からのぞくそりの髪飾りも彩りを添えます。帯締めにぶら下げた小さな印籠も、踊るたびにふわりと揺れ、微かに拍子を刻む鈴の音も、鳴り物と調和します。身にまとうひとつひとつのものが、楽しく美しく踊るための、志留波阿連のこだわり。ここでは、ほんの一部をご紹介します。他にもこだわりがたくさん。ホームページをご覧ください。



しんわかれん

新若連

連長：林 敏幸 創立：1963 (昭和38) 年
連員：60名
本部：杉並区高円寺南2-23-17 電話：03-3316-0884

新若連のイメージというと「和気あいあいと、ごんまりとまとまっている」、「お囃子のテンポが速い」、「シンプルな衣裳」、「地元の連」などでしょうか？ 阿波おどりのスタイルは、昔からあまり変わっていません。今でも夏のお楽しみで、暑いときに集中して活動をしています。毎年夏が楽しみで、練習の日程が決まると、それから自分がこの夏、どれだけ多く練習に出られるか調整するのです。年季の入った連中は、まるで野球選手の自主トレーニングのように体調を整え始めます。上手く、格好良く、きれいに踊ることを目指すのはもちろん、「ノリの良い仲間」として楽しむことを大切にしています。



すいこれん

吹鼓連

連長：福村沙織 創立：2001 (平成13) 年
連員：80名
本部：杉並区阿佐ヶ谷南1-1-2 電話：03-3311-9265
URL：<http://suicoren.gooside.com/>

連名の由来は「皆で元気づける」という意味の「鼓吹」という意味です。その意味を、いつも心に留め置くため、吹鼓連の「吹」と「鼓」の間には返り点をつけています。徳島とのつながりは深く、結成初年度から毎年徳島の阿波踊りに1連で参加し、2002 (平成14) 年からは徳島で4月に開催される「はな・はるフェスタ」の県外招待連として出演しております。吹鼓連のメインは女踊り。全体の和の美しさを表現し、差し足で優雅にしなやかに踊ります。男踊りはバラエティー豊かに、子ども踊りは元気よく、リズムカルに踊ります。鳴り物は本場徳島の正調阿波踊りを追求しています。鉦は三味線の1弦(レ)と2弦(ソ)の2種類の音と同じ高さのものを、状況によって使い分け、笛は三味線を生かす6本調子。締、大太鼓は笛、三味線を支え、またときには勇壮にと自由自在に変化します。



すいれん

粹輦

連長：粕谷孝博 創立：1997 (平成9) 年
連員：50名
本部：杉並区堀ノ内3-49-19-214 電話：03-3313-7849

私たち粹輦は日々練習に励み、男踊りは3つの踊りを学びました。高円寺では珍しい角うちわを使い、みな同じうちわ、あるいは扇をさばき、唯一アップテンポの音で、優雅に踊る姿を見せます。女踊りは、しなやかさと粋さを兼ね備えた踊りで、流し踊りにもこだわりをもっています。高円寺で唯一、女踊りがうちわを持って、驚きと感動を与えます。お囃子は、ビートのきいた、見て楽しいお囃子です。鉦と大太鼓は、身に響くリズムにのった音で、締太鼓と笛は、正調の音を聞かせます。鉦と大太鼓の新しいリズムと、締、笛のミックスの音色を楽しんでください。衣裳は、男が青、女が水色。お囃子は男と女を合わせた色で、3つの衣裳がひとつになって粹輦の色となり、「粋な」の崩し字を背中に入れてあります。



ぞめきれんぢゅう

騒連中

連長：村田利彦 創立：1995 (平成7) 年
連員：36名
本部：杉並区高円寺南4-40-13 電話：03-5378-9206

1989 (平成元) 年8月12日、徳島空港より南新町の恩師を訪ね、記憶では四国放送「土曜ワイド徳島」のインタビューに同行。生のBGMを求め、市内を巡る音はなく、やむなく丸新前の雑踏へ。車を降りると、初日を彩る三味線流し。姐さんひとりが姿態よく会釈、振り向きざまに「ぞめき、いこ!」。ぞめき?! 次の瞬間、三下がりの急調子に囃されて、身体中の血が阿波藍に染まり、何かが内から湧きあふれる。本物は鳴り物だけじゃダメなのだ。時は下って命名のとき、どこをどう探しても、漢字で「ぞめき」が見当たらず。ならば洒落っ気よろしく、ほっかむりに尻端折り、素見を気取って「騒」1字を当てる嚙矢とす。「連中」は一門だけじゃつまらぬと、今を楽しむ無常観。3文字なら、高張提灯を見た目に、尚よろし。「読めない、聞かない、意味不明?」と問われて久しい、薫る由来は騒風味の隠し味、ひと味違うも三味足らず。



てんぐれん

天狗連

連長：斉藤義忠 創立：1965 (昭和40) 年
連員：140名
本部：杉並区高円寺南3-45-15 電話：03-3311-8762
URL：<http://www.tenguren.com>

前身であった「きらく連」を母体に有志を募り、当時20数名の連員で新連結成を誓い集合したのが始まりです。1965 (昭和40) 年8月に念願の衣裳も揃い、高円寺の本番を機に古参の独立連として本格的活動を開始。1971 (昭和46) 年に本場徳島「平和連」と姉妹連になりました。女踊りはレモンイエローの衣裳に、手作りの赤い髪飾りと赤い巾着をつけ、踊りはもちろん、着姿という点にも力を入れています。男踊りは粋な法被と、味のある浴衣。それぞれの衣裳と踊りで色を出し、個性を生かして日々を活動しています。そして練習熱心な「小天狗」が使う手作りうちわと、つので個性豊かな演出をしています。あくまでも「基本」を大事にしていくこと、また、これからの「阿波踊り」をさらに追及していくことで、高円寺を盛り上げていきたいと思っています。



てんすいれん

天水連

連長:岩浪則彦 創立:1985(昭和60)年
連員:45名
本部:杉並区高円寺南4-20-4 電話:03-5378-3390
URL:<http://tensui-web.hp.infoseek.co.jp>

理想の阿波踊りを求めて22年前に結成された天水連。その歴史には、阿波踊りに対する熱い情熱とそれを守る強い意志がありました。結成当時、「安く早く仕上がる」という資金的な理由で作られた白と黒の衣裳は、一方で「外見や体裁ではなく、本当の実力を見てもらいたい」といった信念として現在まで受け継がれています。どこよりも腰を低く、優雅にそして力強く。こよなく阿波踊りを愛する天水の心意気をこの衣裳に込めた「こだわり」です。また、大太鼓を手作業で塗り替えたり、踊りのうちわを手作りで張り替えたりといった作業も、同じ時間を共に過ごすことで結束を深めるといったわれわれの「こだわり」のひとつです。みんなで語り、そしてよく食べ、よく笑う。これが天水ファミリーのパワーと秘密といえるかも! こうした天水の情熱を感じていただけただら嬉しく思います。



のびゆくれん

のびゆく連

連長:伊藤勝正 創立:1963(昭和38)年
連員:75名
本部:杉並区高円寺南3-45-17 電話:03-3311-6665

のびゆく連は、幼稚園から中学生がおもに活動している連です。子どもたちが主役ですが、これからは誰もが参加できる連を目指します。例えば「親子」、「おじいちゃん、おばあちゃん」というように、家族丸ごと踊れるようになればいいなと思います。現在でも「違う学年や学校の人と友だちになれる」、「以前よりも積極的になった」と、子どもたちや保護者の方々の評判もよく、高円寺の本番に向け、一所懸命練習しています。決して派手な活動はできなくても、基本に忠実にさわやかに踊ることを目標としています。さわやかさがさらに出るよう、数年前より衣裳は、パステルカラーを使った明るいものに徐々に変わっています。のびゆく連は、高円寺阿波おどりと共に発展してゆきたいと思ひます。



はなびしれん

花菱連

連長:小野寺貞光 創立:1966(昭和41)年
連員:65名
本部:埼玉県所沢市東新井町773-1 ビック武蔵野105号室
電話:0429-95-4038 URL:<http://www.hanabishiren.com/>

1966(昭和41)年に男だけの連として産声を上げた花菱連ですが、お陰さまで、今年結成40周年を迎えることができました。結成当時、高円寺阿波おどりに初めて法被姿を取り入れたのは、われら花菱連です。その歴史ある法被も、結成40周年にちなんで今年はイメージチェンジ。男臭さの気っ風の良さは、今も変らぬ伝統です。気合いの入ったお囃子や今も変らぬ法被踊りも目立ちたがり屋が多くノリノリです。また、踊り終わったひとときもアットホームな雰囲気をもつ花菱連。そんな環境から生まれる阿波おどりだから、連員同士の呼吸もピッタリで、うまく踊ることよりも楽しく踊ることを目標に、練習に励んできました。どうぞ、ノリノリの踊りをご覧ください。きっとあなたの心に焼きつくはずですよ。



はなみちれん

花道連

連長:名和一成 創立:1994(平成6)年
連員:50名
本部:杉並区堀ノ内1-17-32 電話:03-3313-3639
URL:<http://tokyo.cool.ne.jp/hanamichi/>

花道連は1994(平成6)年に結成された、高円寺ではまだまだ未熟な若い連です。連員は50名と人数も比較的少ないなか、新人からキャリア40年を超えるベテランまで在籍しています。連の特徴である衣裳は、全員が藤色の同じ色彩の衣裳。昼間は太陽の光に、夜間は演舞場を照らすライトの中で、ひととき映える色を醸し出し、踊りに艶を添えています。お囃子は心臓の鼓動をイメージした独特な音で、思わず体が自然と上下に動いてしまう、そんなリズムです。阿波踊りというすばらしい伝統を意識しつつ、常に新しい踊りや音を考え、これから先も、花道連の謳い文句「高円寺の花道ここにあり」を胸に、楽しく、そしてお客さまに喜ばれる踊りを演じて行きたいと思っています。



ひさごれん

ひさご連

連長:田島 彰 創立:1997(平成9)年
連員:42名
本部:練馬区上石神井3-6-31 電話:048-466-6833

阿波踊りに情熱をもつ有志たちが集まり1997(平成9)年に「ひさご連」として結成いたしました。ひょうたんのことを「ひさご」ともい、昔から日本人には馴染み深く愛されてきました。その形もさまざま、個性豊かでひょうきん。ひさご連は、そんなひょうたんを象徴としています。踊り子の個性が十分に生きるよう、またその良さと特徴が引き立つように、本場徳島の正調阿波踊りを求めて、研究しております。キレの良いコミカルなリズムのお囃子に合わせて踊る男浴衣は、ひょうきんで渋味があります。早い音に合わせてコマのようにパワフルに回転して踊り廻る法被踊りは、定評をいただいています。今年も連結成10年目を迎え、連協会への仲間入りをさせていただきました。なお一層精進を重ね、高円寺の名物となるひさご連を目指します。



ひよつとこれん

ひよつとこ連

連長:伊丹正信 創立:1964(昭和39)年
連員:100名
本部:杉並区高円寺南3-21-15 電話:03-3311-4265
URL:<http://www.hyottoko-ren.com>

1964(昭和39)年にひよつとこ連は誕生しました。1994(平成6)年、茨城県のお祭りに参加したときに、阿波踊りの本場徳島の有名連「うずき連」と出会い、これが阿波踊りだと衝撃を覚えました。今では「うずき連」と友好を結び、音、踊りともに指導を仰いでおります。鳴り物は「うずき連」のゆっくりと落ち着きのあるテンポ“粋調(すいちょう)”を基本とし、舞台演出などではパート別の音もごぞいます。踊りは「手を高く」をモットーに、どこから見てもしなやかで、キレのある踊りを心掛けています。あくまで基本に忠実で、そこから個性に磨きをかけていくのです。衣裳には連名の象徴でもある、ひよつとこの顔を全パートに入れております。高円寺では歴史の古いひよつとこ連、皆さまに踊り心と笑顔をお伝え致します。



まいちょうれん

舞蝶連

連長：鈴木一男 創立：1992(平成4)年
連員：80名
本部：高円寺南4-29-6 電話：03-3312-9866
URL: <http://maityou.main.jp/>

舞蝶連は今年50年を迎える高円寺阿波おどりの中では創連14年とまだまだ若い連ですが、毎年たくさんのご来場いただいておりますお客さまに感動を与え、年間90日を超える稽古を積んでいます。基本は尊守しつつ、常に斬新でオリジナリティあふれる鳴り物と踊りで、見る者を圧倒。さらに進化し続けております。数少ない名職人の魂が注がれた、3丁の大鉦が操る「舞蝶七音金色」、「華麗に美しく舞う姫蝶」、「すべて動きが異なる蝶雄」。変幻自在にして洗練された、魅惑の「蝶」をどうぞ堪能ください。



みどりれん

美踊連

連長：斎木康二郎 創立：1972(昭和47)年
連員：75名
本部：杉並区高円寺南3-48-1 電話：03-3314-9222
URL: <http://www.5e.biglobe.ne.jp/~midori/>

結成30余年、常に正調阿波踊りを目指し、男は「自由奔放」、女は「品良く」、鳴り物は「豪快に」をモットーに活動してきました。都内は元より、その活動は関東一円にまで広がっています。活動の一環として、本場阿波の心意気を学ぶための徳島研修があり、毎年欠かすことが無く続けております。友好連との交流も密になり、連員の士気も向上してきています。阿波踊りに対する情熱を「赤」、ひたむきさを「青」、力強さを「黒」で表現して配色した踊り衣装、他にまねることのないうちわさばきでどっしり腰を落とした男踊り。集合美が基本の女踊り、スローなリズム重視の鳴り物とバランスよくまとめ、連員が若いものにも関わらず、ベテランの味を醸し出しています。またチームワークの良さも自慢のひとつです。今後の高円寺阿波おどりの発展と共に、われわれ美踊連も高い理想をもち続け、飛躍するための努力を惜しむことなく邁進していきたいと思っております。



わかこまれん

若駒連

連長：佐々倉秀夫 創立：1974(昭和49)年
連員：65名
本部：杉並区高円寺北2-8-12 電話：03-3339-5257

1974(昭和49)年8月、高円寺銀座商店会(現純情商店街)の命により、小中学生を中心に夏休みの思い出づくりと、練習を通して子どもたちの協調性を養うことを目的として設立しました。わが連の特徴は、男踊りは腰を低く手は頭より高く、女踊りは足並みを揃え、手は笠より高く上げて踊る正調阿波踊りを基本とした独自の踊りです。また、お囃子も、阿波踊りの基本に忠実な構成にしています。もうひとつの特徴は、女踊り全員で、踊りながら連の歌を歌うことです。

1 阿波で生まれた 阿波踊り のぼりのぼって 高円寺 踊る笑顔は 晴れやかに いきでいなせな 若駒連

1 踊る阿呆に 観る阿呆 歌い文句は 今もなお 生きて伝わる 阿波踊り

高円寺で生まれ、高円寺で育った若駒連です。



一般参加連の紹介

★一般参加連★
連協会所属連以外で、高円寺の50年を彩る仲間連です。

あげお小粋連

連長：塩崎昭
所在地：埼玉県上尾市
連員：40名
問合せ先：048-781-8083

正調阿波踊りを継承しつつ、新しい踊りも取り入れて、連名に負けない小粋な踊りを目指しています。衣裳は「粋」をアピールする意味で、背中に纏(まとい)をあしらいました。

板橋区役所けやき連

連長：宮川修一
所在地：東京都板橋区
連員：45名
問合せ先：03-3579-2662

おかげさまで結成30年目を迎えます。板橋区内をはじめ、近隣のお祭やイベントへの出演を通じて「いきいき暮らす緑と文化のまち、板橋」を目標にまちの元氣と賑わいにひと役買っています。

NTT高円寺でんわ連

連長：山崎暁
所在地：東京都新宿区
連員：100名
問合せ先：03-5386-9111

NTTグループ社員を中心に、OB、OG、その家族、地域のみなさんも加わって活動し、結成30年。心も体も燃える夏、その心意気を「燃えるオレンジ」の衣裳に包んで思い切り踊ります。

大田区役所くすのき連

連長：赤阪英夫
所在地：東京都大田区
連員：40名
問合せ先：03-3735-8020

区役所職員で構成され、区内で行われるイベントを中心に年間60回の出演をこなしています。男性の浴衣には大きく区の紋章が、女性の着物には区の花である梅と区の鳥であるウグイスがそれぞれ染められています。

かせい連

連長：窪田弘美
所在地：東京都中野区
連員：70名
問合せ先：042-561-9441

男踊り、女踊りそして踊りをリードするお囃子が一体となって、皆さまに楽しんでいただける阿波踊りを作り上げています。「踊る阿呆たち」にご期待ください。

川崎銀杏連

連長：白石真澄
所在地：神奈川県川崎市
連員：35名

正調阿波踊りを目指して練習に励み、その奥深さを感じています。法被踊りの笑顔と楽しさをモットーに、活動しています。

希望連

連長：浅野輝政
所在地：東京都杉並区
連員：150名
問合せ先：03-5310-3362(佐藤方)

心身にハンディキャップがあっても、「ヤットセイ」の元氣な掛け声で楽しく参加しています。

経堂むらさき連

連長：樋山奈津子
所在地：東京都世田谷区
連員：200名
問合せ先：03-3427-5118

商店街の連で、幼児から大人まで一緒になっての練習は楽しく、また音、組み踊りなど各学年で構成を考え、先輩方と意見交換しています。子どもたちのがんばりを見て嬉しいです。

久米川連

連長：桜井洋
所在地：東京都東村山市
連員：50名
問合せ先：acky8800@uol.gateol.com

創立28年を迎えます。真夏の夜の祭典。はじける情熱、ほとばしる汗、感動と興奮、魅せます、今年も!

晃妙連

連長：榎本好男
所在地：東京都杉並区
連員：80名
問合せ先：03-3382-2285

1970(昭和45)年に産声を上げ、礼儀正しく思いやりの心をもった青年たちが、「一隅を照らす光明のように明るく爽やかに」を合い言葉として、毎年趣向を凝らした踊りを披露しています。連の要でもある高張提灯も自慢のひとつです。

小金井さくら連

連長：新革
所在地：東京都小金井市
連員：50名
問合せ先：koganei-sakura@msn.com

徳島の正調阿波踊りを手本としながら、その上で自分たちなりの踊りや音を作り出すよう、練習を重ねています。流し踊りの途中で鳴り物のテンポが変化し、それに合わせて踊りも変化します。どうぞご覧ください。

国分寺連

連長：上道明三
所在地：東京都国分寺市
連員：65名
問合せ先：042-575-7708

創立20年を迎えました。正調阿波踊りを基本とし、地域の皆さまと交流を深め見せる踊り、踊らせるお囃子を心がけて練習しています。高円寺阿波おどりに参加できることを、励みにしております。

伍楽連

連長：田中武
所在地：神奈川県相模原市
連員：120名
問合せ先：042-743-8339

伍楽の「伍」の字は仲間を意味し、男も女も子どもから大人まで、人の和を大切にします。踊って楽しい、見て楽しい、笑顔あふれる連です。

下北沢連

連長：大木弘人
所在地：東京都世田谷区
連員：120名
問合せ先：03-3468-2933

世田谷の下北沢一番街商店街が管理運営する「ひふみ連」「やっこ連」の2連で構成されています。下北沢阿波踊りで活躍する、地元出身者だけの連です。

上州いわびつ連

連長：都所信三郎
所在地：群馬県東吾妻町
連員：48名
問合せ先：0279-68-2622

高円寺阿波おどり連協会各連の指導で、1995(平成7)年に結成し、11年目を迎えます。年間イベントはいわびつ祭り、高円寺阿波おどり、大田芸能発表会に至っており、これからも多くの参加を希望し、練習に励みたいと思っております。

しらいしれん
しらいし連
連 長：斎藤哲秀
所在地：東京都杉並区
連 員：35名
問合せ先：03-3314-1421

白石建設(株)職員有志により結成され、今年で結成15年。企業連でありながら職員だけでなく、同じ建設業界、家族、友人へも踊りの輪を広げております。

すぎのこれん
杉の子連
連 長：高橋正治
所在地：東京都杉並区
連 員：150名
問合せ先：03-3337-2000

1967(昭和42)年に創立。高円寺純情商店街が支援する、幼児から小学生で構成されている連です。安全かつ無理のないよう、多くの保護者のボランティアによって引率され、午後8時には解散します。踊りも鳴り物も、子どもが主役の連です。

だいこんれん
だいこん連
連 長：谷口春江
所在地：東京都練馬区
連 員：65名
問合せ先：03-3996-7980

聴覚障害者や、手話に対する理解が広がることを目的に、手話サークルの仲間と一緒に踊っています。親、子、孫と二代、三代の連員もいます。お囃子の響きを身体で感じ、リズムを取ります。

つくしれん
つくし連
連 長：柿崎寿賀子
所在地：東京都練馬区
連 員：80名
問合せ先：03-3441-7039

藍染めを使用し、連名の紋を作ってもらいました。衣裳にこだわりをもっていますが、子どもたちの動きも見ていただきたいです。

しんじゅくやくしよつじれん
新宿区役所つじ連
連 長：増田丸雄
所在地：東京都新宿区
連 員：50名
問合せ先：maruochan@mx4.ttcn.ne.jp

「とびきりの笑顔」がつつじ連の看板。「ただの職場連では終わるまい」という気概で、練習を重ねています。男踊り、女踊り、鳴り物、三位一体の調和を目指しています。

すけろくれん
助六連
連 長：竹内逸夫
所在地：東京都大田区
連 員：35名
問合せ先：03-3742-2029

結成以来、正調阿波踊りを追及し、粋で歯切れ良い女踊りと、たくましい男踊り、唼呵を切るようなお囃子を心がけています。

だいさんきかくれん
第三企画連
連 長：久米信廣
所在地：東京都中野区
連 員：40名
問合せ先：03-5318-3328

連長久米は徳島県出身者。本場徳島の「殿様連」に憧れ、今年で創立18年目。目の覚めるような黄色い法被と豪快な男踊り、気迫溢れる鳴り物がトレードマーク。見所は、笹田連長率いる「殿様連」との共演です。

てんしょうれん
天翔連
連 長：渋谷一夫
所在地：東京都杉並区
連 員：40名
問合せ先：03-3317-0822

阿波踊りを離れても、連員同士仲がよく、でも練習となると、皆真剣そのもの。見ている人を楽しませるのは技、心あつてのこと。それと共に自分自身も楽しまなくては!のスピリットは、連員ひとりひとりの心に生きています。

しんすいれん
新粹連
連 長：三田昭人
所在地：東京都豊島区
連 員：45名
問合せ先：info@shinsuiren.com

「新たな響き、鼓の音色。粋な踊りに花が咲く」「新しく、しかも粋な阿波踊りを目指そう」ということで命名。衣裳は連の紋を掲げ、青を基調にさわやか、かつ神秘的な色。さまざまなジャンルから表現を取り入れ、斬新な演出に挑戦しております。

すざくれん
朱雀連
連 長：森泉淳
所在地：東京都杉並区
連 員：50名
問合せ先：suzakuren@hotmail.com

連員同士の意思疎通を大切に考え、連員数は50名以下に制限し、アットホームな雰囲気や育んでいます。鳴り物は誰もが心踊るようなオリジナルの音を追求。衣裳の背中には「大空にはばたく朱雀」のマークが染めつけてあります。

たつのおとしごれん
たつのおとし子連
連 長：村瀬文男
所在地：東京都杉並区
連 員：80名
問合せ先：03-3394-3428(村瀬)

杉並区聴覚障害者協会が、手話サークル「杉の会」のボランティアで参加して、25年目を迎えます。聴覚に障害があっても、阿波踊りを楽しんでいます。

とうきょうあおれん
東京葵連
連 長：中村寿美雄
所在地：東京都杉並区
連 員：35名
問合せ先：03-3394-5260

正調の音、踊りを目指し立ち上げて2年。その成長過程をお楽しみください。連のモットーは明るく楽しくです。

すぎなみやくしよざんかれん
杉並区役所さざんか連
連 長：大林俊博
所在地：東京都杉並区
連 員：80名
問合せ先：03-3312-2111

「地元の祭りに職員も参加しよう」を合い言葉に、職員有志により結成されました。創設時は「とにかく参加すること」が目標でしたが、今では踊る阿呆が増え、踊りとお囃子のバランスの取れた連を目指して頑張っています。

すそのれん
すその連
連 長：杉山猛
所在地：静岡県裾野市
連 員：45名
問合せ先：055-992-0183

地元で連を作ろうと集まった、阿波踊り大好き集団です。衣裳は生地の違う青とピンクの布を使い、連長自身がデザインした紋をあしらいました。連員の「和」を第一に新しい阿波踊りの創造を模索し、調和のとれた連づくりに努めています。

だむだんれん
だむだん連
連 長：遠藤二郎
所在地：東京都文京区
連 員：90名
問合せ先：03-3261-9570

文京区音羽を本拠地にし、今年で結成15年。「あまりがんばらず、できる範囲でやりましょう」をモットーに、上手な人は上手に、初めての人もそれなりに踊る、観客と一体となって阿波踊りを楽しむ連です。

とうきょうえびすれん
東京えびす連
連 長：小林祐生
所在地：東京都杉並区
連 員：40名
問合せ先：03-3317-1059

1998(平成10)年結成以来、関東各地の阿波踊り大会や徳島に参加しながら、各施設訪問および社会活動を積極的に行っています。エビス顔をモットーとし、静と動の調和、鳴り物と踊り手の和をテーマに毎回楽しく踊らせていただいております。

とうでんれん
とうでん連
連 長：菅原信行
所在地：東京都杉並区
連 員：70名
問合せ先：03-4336-2345

電化製品のPRを加えた独自の掛け声とそれに合わせたフォーメーションの個性的な踊りです。初参加者の多い素人集団ですが、「明るく、楽しく、元気よく」をモットーに一生懸命踊ります。

にししばれん
にししば連
連 長：高見恒子
所在地：静岡県浜松市
連 員：34名
問合せ先：053-455-0015

今年で18年目。高円寺へ参加することを楽しみに、月2回の練習に励んでいます。老人ホーム、その他の地域へのイベントに参加して、地元の人にも喜ばれております。

はつだいしょうせいはいはつだいれん
初台商盛會初台連
連 長：桜内秀吉
所在地：東京都渋谷区
連 員：70名
問合せ先：03-3379-1391

提灯グループと金色と銀色のハンテン踊りに注目! 二拍手、一拍手と使い分け、力強く、楽しくなるお囃子です。

ふどうれん
富道連
連 長：山崎千二
所在地：東京都三鷹市
連 員：65名
問合せ先：0422-32-4370

子どもからお年寄りまで、幅広い年齢層で踊っています。その中には親子の踊り手もあり、とてもアットホームな雰囲気です。

なかむらぼしれん
中村橋連
連 長：江村健二
所在地：東京都練馬区
連 員：50名
問合せ先：03-3970-0300

中村橋の地元の小、中学校を中心にした連です。

にほれん
式穂連
連 長：花柳和幸穂
所在地：東京都小金井市
連 員：60名
問合せ先：042-384-1881

幕末に描かれた「阿波盆踊図」という屏風絵から、当時の阿波踊りを再現いたしました。衣裳も踊り方も、粋で洒落っ気にあふれます。鳴り物にも力を入れており、ほかにも特徴があります。

はなのきれん
花の木連
連 長：武藤寛
所在地：東京都新宿区
連 員：100名
問合せ先：03-3367-0942

新宿のスナック花の木の飲み仲間が集まって作り、今年で29年目。すっかり高円寺阿波おどりの古株です。浴衣は飲み仲間だった漫画家「滝田ゆう」の絵入りが自慢です。

ほおずきれん
ほおずき連
連 長：本谷利勝
所在地：埼玉県草加市
連 員：35名
問合せ先：048-942-3279

結成2年目で阿波踊りの楽しさを解り始めたほおずき連です。2005(平成17)年の初出場の緊張を、観衆の皆さまの暖かい声援が助けてくれました。今年はそのお礼を込めて、「ありがとう」が爆発する夜にしたいと思います。

なりますちどれん
成増チルド連
連 長：田中智泉子
所在地：東京都板橋区
連 員：72名
問合せ先：03-3930-4188

成増チルド連は文字通り元気一杯の、3歳~中学生までの子どもたちの連です。お囃子は子どもたちの親で結成し、踊りを盛り上げるアットホームな連です。

ねりまきたまちじゃじゃまれん
練馬きたまちじゃじゃ馬連
連 長：内田浩
所在地：東京都練馬区
連 員：70名
問合せ先：03-3933-3352

一拍子の小気味良い鳴り物。6種類のパーツに分けた踊り部隊。

はままつしれん
浜松市連
連 長：飯尾忠弘
所在地：静岡県浜松市
連 員：54名
問合せ先：053-457-2298

小粒ながらもパンチの効いた、躍動感あふれる阿波踊り。やらまいかスピリット! 創造都市・浜松から、元気をお届けします。

まいくろそふとれん
マイクロソフト連
連 長：森上寿生
所在地：東京都渋谷区
連 員：50名
問合せ先：03-4523-3259

本場徳島で娯楽平と踊らせていただいたご縁から、姉妹連の飛鳥連にご指導いただいております。男踊りの連でしたが、昨年より女踊りも始め、連としての活動に、厚みを加えていこうとしております。

にいざおかめれん
新座阿亀連
連 長：直井悦子
所在地：埼玉県新座市
連 員：30名
問合せ先：048-474-8958

踊り好きの集まりです。正調を追う鳴り物、激しい武士の提灯踊り、キレイく舞う女踊り、踊りに魅せられた連中が、夏を燃やすかのようには踊ります。

ねりまきたまちぼんぼこれん
練馬北町ぼんぼこ連
連 長：岡本竜治
所在地：東京都練馬区
連 員：100名
問合せ先：http://members3.jcom.home.ne.jp/ponpokoren/

東武東上線・東武練馬駅南口のニュー北町商店街が、ホームタウンの連です。商店街とお客さまで連を構成し、毎年7月最終土曜日に、多くの連が参加して阿波踊り大会が行われます。先頭を行く子ども提灯が、かわいく元気いっぱいです。

びっくりれん
びっくり連
連 長：増田和男
所在地：東京都杉並区
連 員：40名
問合せ先：03-3385-0755

1967(昭和42)年、高円寺純情商店街の「びっくり市」から命名され、一般参加者を受け入れる、唯一の連として活動してきました。独立から3年目。40名前後の小規模連ながら、名門連に負けないよう、練習に努力を重ねています。男踊り中心のダイナミックな踊りをご覧ください。

まことれん
誠連
連 長：堀江誠
所在地：東京都杉並区
連 員：45名
問合せ先：03-3336-0438

基礎を大切にしながら、他連と違うダイナミックなうちわ踊り、提灯踊りに注目してください。踊り手は10年以上のベテランで立ち上げ、連名の命名は新撰組の活動が4年あったことを目標にしました。今年はその設立4年目の年なので、頑張りたいです。

まじよるかれん

舞女流華連

連 長:宮本芳栄
所在地:兵庫県洲本市(淡路島)
連 員:50名
問合せ先:0799-24-2356

古くから伝わる正調阿波踊りに、淡路島独特の奴唄おどり、淡路人形を用いての人形踊りが加わり、息の合った女踊り、威勢良い提灯踊り、軽快な囃しのリズムをお楽しみください。

むさしみなみれん

むさし南連

連 長:越徳治
所在地:東京都小金井市
連 員:100名
問合せ先:042-384-5947

正調を基本とし、自由奔放に品良く楽しく、をモットーとした、個性豊かな踊りです。お囃子は基本を大切に連独自の音を作り出し、心躍らせます。毎年、徳島の娯楽留のお世話で踊りを満喫しています。

ゆりかもめれん

ゆりかもめ連

連 長:川名義男
所在地:東京都品川区
連 員:37名
問合せ先:03-3782-6045

自分たちで創作した組踊りの種類が多く、とくに子どもの扇を使った踊りが自慢です。

★徳島より参加いただいた連です。

豆狸連

連 長:林淳一
所在地:徳島県板野郡
連 員:101名
問合せ先:088-694-5317

ドラマー、津軽三味線とも共演し、和太鼓奏者の指導のもとに大太鼓は8種類の音を打ち分けます。暴れ踊りの男性、笛を主体とした女踊り、澁刺としたチビッコたちが踊り、時代に合った新しい阿波踊りを模索し、挑戦し続けています。

みたかれん

みたか連

連 長:吉野清司
所在地:東京都三鷹市
連 員:80名
問合せ先:0422-49-1314

三鷹阿波踊りも、本年39回目を迎えます。「楽しくカッコ良く」をモットーに、子どもから大人まで、調和のとれた和やかな連を目指しています。見る人に感動を与えられるように、がんばっています。

めぐろぎんざれん

目黒銀座連

連 長:熊上泰一
所在地:東京都目黒区
連 員:110名
問合せ先:03-3712-2944

キレのある、オリジナル曲を中心に展開する鳴り物。素手、うちわ、扇子、提灯で踊る男踊り。地元中目黒夏まつりを中心に響(おと)と踊酔(とうすい)を掲げ、活動しています。

みゆうひよこれん

美遊ひよこ連

連 長:長沼知春
所在地:東京都杉並区
連 員:80名
問合せ先:03-3336-6278

かわいい子どもたちを中心に、指導するお姉さんとお囃子のお父さん、衣裳はお母さんの手作りで。よく遊び美しく育つ、をモットーに、仲間の輪が広がるアットホームな連です。

やまがたんだずれん

山形んだず連

連 長:河合克行
所在地:山形県山形市
連 員:60名
問合せ先:023-623-7373

紅花国体において、次期開催県徳島のアピールのために阿波踊りを手掛けるようになりました。2005(平成17)年より、「みちのく阿波踊り」として山形の新たなお祭りとしてスタートさせています。

むさしあおれん

むさし葵連

連 長:井花伸浩
所在地:埼玉県狭山市
連 員:90名
問合せ先:042-956-1431

アップテンポのお囃子に乗せて、法被踊りは端正で、軽快に、女踊りは優美でしなやかに舞うのが特徴です。衣裳は男子の青法被、女子の白法被。白と青を基調とした、女踊りとお囃子。いずれもすっきりさわやかな色使いです。

ゆうびんきょくれん

郵便局連

連 長:米澤俊英
所在地:東京都杉並区
連 員:70名
問合せ先:03-3313-2241

地域と共に歩む郵便局として、1987(昭和62)年から毎年参加しています。荻窪郵便局、杉並郵便局、杉並南郵便局が合同で鳴り物と踊りの練習に集まり、汗を流しています。演舞場での皆さまのご声援が、配達や窓口での仕事の活力となっています。

いんげんれん

隠元連

連 長:高島博
所在地:徳島県徳島市
連 員:50名
問合せ先:088-653-7028

ぶしゅうれん

武秀連

連 長:浮津茂昭
所在地:徳島県徳島市
連 員:55名

よしこのれん

よしこの連

連 長:山室博
所在地:徳島県徳島市
連 員:80名

★徳島県阿波おどり保存協会合同連★

阿波藍連

連 長:吉田敏一
所在地:徳島県徳島市
連 員:60名

かぶきれん

歌舞伎連

連 長:鈴木照雄
所在地:徳島県徳島市
連 員:65名

ほんけだいまようれん

本家大名連

連 長:清水理
所在地:徳島県徳島市
連 員:100名
問合せ先:088-625-2655

らくちやれん

楽茶連

連 長:知田芳彦
所在地:徳島県名西郡
連 員:88名
問合せ先:088-674-0965



お宝秘伝物

高円寺阿波おどり50年の歴史の中で、見たこともない秘蔵品を発見！
二度と手に入らないこんな品々がありました。



1960年
ばか踊り時代の浴衣



1963年
初代大太鼓



1974年
関根敏邦氏が自費出版した
「あわおどり 高円寺の十八年」



1980年
記念グッズとして製作した
法被型手ぬぐい



1996年
記念誌「めぐるめく発展の四十年
おどれ高円寺」

1980年
独自で作成した湯のみ茶碗



1978年(第22回)～1995年(第39回)
18年間続いた「阿波おどり新聞」



男性風呂



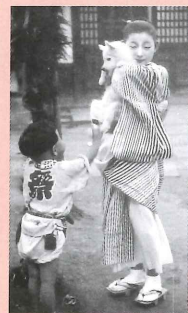
女性風呂



お宝写真

葵新連・森田連長宅には、阿波おどりに関する資料や第1回からの写真がきちんと整理されています。仲間達はここを「阿波おどり資料館」と呼んでいます。これら秘蔵写真で、街や阿波おどりの変遷が伝わるでしょうか？

カラー写真は2006年のもの。高円寺の街に散らばる阿波おどり関連のオブジェだ！



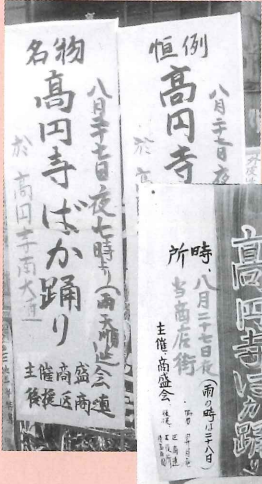
最初に「阿波おどり」を提案した茂木氏▲



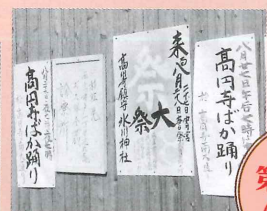
第1回 (1957)



第2回 (1958)



▲手書きのポスター



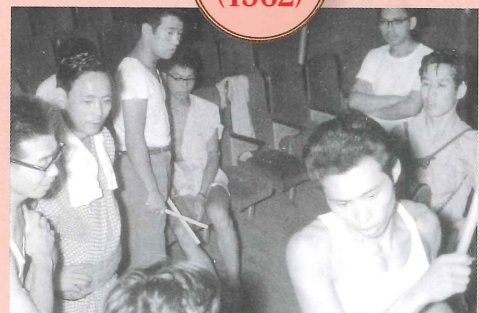
▲初の広告つき高張提灯

第4回 (1960)



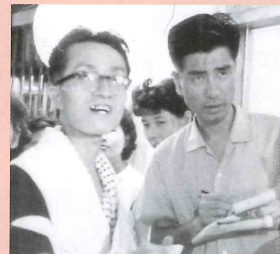
◀当時の物価が偲ばれる

第5回 (1961)



▲映画館での練習

▼写真コンクールが始まる



▲インタビューを受ける森田氏



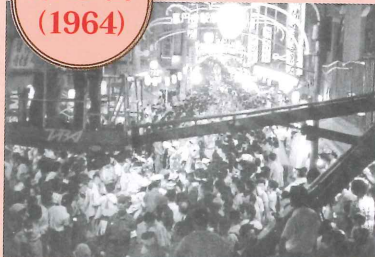
▼警備をする街の人(右)



▲警察による警備

第7回 (1963)

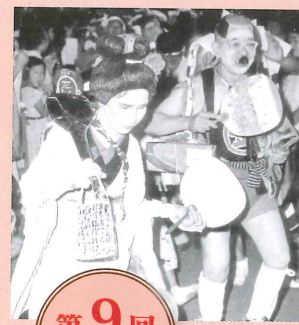
第8回 (1964)



▲当時の大太鼓は今より小さい
◀おどりの様子をテレビ局が初取材



▲杉並公会堂でのテレビロケ



◀仮装した踊り手も登場

▼新調された衣裳を着る踊り手



第9回 (1965)



▲踊り手の名手登場

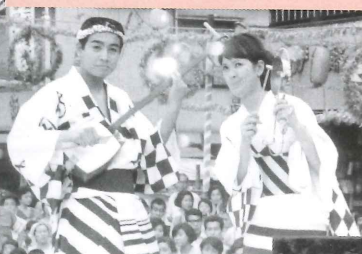
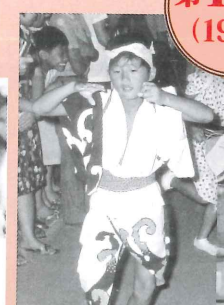
第10回 (1966)



▲初めての棧敷席
バル商店街南側
現「ヒグチ薬局」あたり



久保弘・石田あゆみ登場▶



▲テレビ局での収録



▲高円寺の鳴り物陣の真中の2人は
徳島の姓億氏(左)と小野氏

女性の男踊りは初登場か?▶



高円寺駅のうつりかわり



1960年 中央線が路面を走っていたころ



1966年 高架線となつたころの広場での踊り

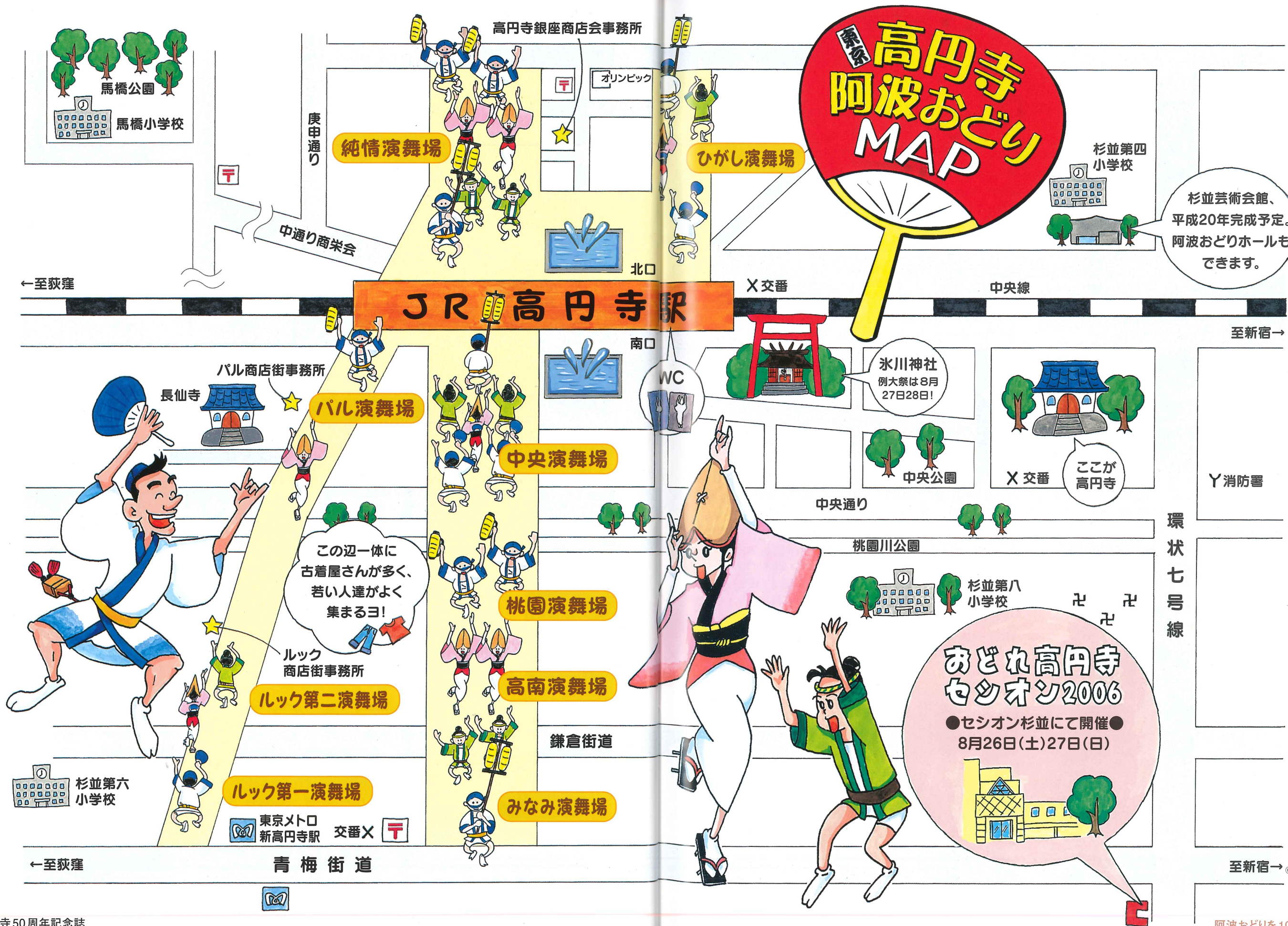


2006年 高円寺駅リニューアル

※50周年記念誌では第10回までの資料を発表したが、機会があればホームページなどで第11回以後のことを発表できればと思っている。

東京高円寺阿波おどりMAP

踊り子は高円寺南北にある9つの演舞場で踊ります。連全体が見渡せる大通りと踊り子を目の前にして見ることのできる商店街。どの演舞場も見ごたえ十分です!



おどれ高円寺 セッション2006
 ●セッション杉並にて開催●
 8月26日(土)27日(日)

杉並芸術会館、平成20年完成予定。阿波おどりホールもできます。

この辺一体に古着屋さんが多く、若い人達がよく集まるヨ!

氷川神社 例大祭は8月27日28日!

ここが高円寺

至新宿→ © 深沢ほまれ

徳島に学ぶ 阿波の心 踊りの心

本場徳島は、阿波踊りに携わる者にとってまさに聖地。今回、高円寺の“三人娘（井田・佐久間・杉谷）”が徳島へ飛び、「名手」たちにお会いした。歴史とこだわりで裏づけられた阿波の技術と心に触れ、少しでも近づきたいと願いながら話を聞いた。また、街のいたるところで阿波踊りに出会える環境が楽しく、うらやましく映った。この旅は、これからを担う世代に、刺激と課題を与えてくれた気がしてならない。



多田 小餘綾 (ただ こゆるぎ)

プロフィール

「お鯉さん」の名で親しまれている。1907年徳島生まれ。「よしこの」の名手。1931年に初めて阿波踊りをレコードに吹き込んだ。高円寺でもかつてはこのレコードで踊っていたという。
<http://okoisan.com>

「阿波踊りというのは、単純なのにどうしてこんなに“かあいらしい”のかと、いつも思うんですよ」と、柔らかな口調で話す「よしこの」の名手・お鯉さん。テンポの速い三味線とのんびりとした歌、そのふたつが「重なり合う瞬間がある」のだといいます。そこが難しくもあり、逆に何ともいえず“かあいらしい”ところなのでしょう。リズムに乗って弾き始めると「踊る人の足の運びが見えてくる」とのことです。

「昔はもっとゆっくりで、一人ひとり格好が違ったんです。テンポはよしこのに合わせていましたけど、今みたいに100人が100人、ピシッとそろうことはなかったですね」。昔を振り返りながら、今の人たちは洗練されていて格好がいいと、しきりに褒めてくださいます。「踊りも間が大事やけど、三味線こそ間が大事。それがうまいこといったら、かあいらしくてたまらんなあ」。

毎朝、うがいとラジオ体操は欠かさず、晩酌には1杯のビールを必ず飲むそうです。肌ツヤも良く、きれいにお化粧をしている姿はとて99歳には見えません。そんなお鯉さんも、コンサートの前には、喉に鍼を打ち肌が黒くなってしまふほど。当日は緊張で食事も喉を通らず、手のひらに「人」の字を書いて飲み込むことも忘れないとのこと。どんな小さな会場でも、常にベストコンディションで舞台に臨む姿勢が、お鯉さんのよしこのをより素晴らしいものにしていただいているのでしょう。

「ほんとに阿波踊りはいいもんじゃ。ずうっといつまでも続けていただきたい。」と穏やかな笑顔で話すお鯉さん。現在、100歳のコンサートに向けて準備の真最中だ。「私がおもった若かったら、高円寺に寄せていただいて、声の限り歌わせていただきたい」と、最後にありがたいお言葉をいただいた。



お鯉さんのよしこので踊らせていただいた幸せな時間。湯飲み茶碗を鉦代わりにたたいているのは、阿呆連・山田連長。



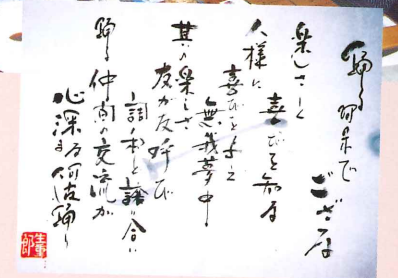
四宮 生重郎 (しのみやせいじゅうろう)

プロフィール

1928年徳島生まれ、娯座留連長。23歳で娯茶平入連。同連長を経て、平成元年娯座留を結成。現在も多方面で活躍を続ける男踊りの名手。

感じたこと、思ったことを、味のある書体で風情豊かに綴っている。余分なものをそぎ落とした言葉は実に深い。この書（写真：右）に向かうと技術の向上を求めるあまり、踊りの本質を見失ってはいないかと、自問自答してしまう。

「上達の秘けつは？」と聞くと「好きやから」と満面の笑みを浮かべる男踊りの名手、生重郎さん。「当たり前のができたら、踊りは上手になるんよ」「あいさつや日々の心掛けが踊りに出る。何よりも心が大切」と語る真つぐな眼差しに、思わず背筋を伸ばす。毎日、踵を上げてのスクワット、指先の運動など努力は欠かさない。阿波踊りの魅力は、自由奔放な表現にあるとのことで「単調やけ



んね。阿波踊りって。ああ、ええなあって見ている人を感じてもらえると、それが踊り手の喜びになり、上達につながる」と語る。57年間、踊る阿呆を続けてきた今、「極限状況に達し、気がつく、風情と余韻の境地」と言葉を残す。



四宮 賀代 (しのみや かよ)

プロフィール

徳島生まれ。現在の女踊りのスタイルを確立した名手。観る人を魅了し、踊り手にとっては憧れの存在。出演の他、講師としても飛び回る多忙な日々を送る。「阿波おどりグループ虹」代表。

「阿波踊りの動きはとてシンプルなんです」と話すのは、女踊りの名手、賀代さん。うまく踊れない人ほど動き過ぎて無駄な動きが多く、その無駄な動きを削っていくと、シンプルで楽な踊りになるという。そして、さらに大切なのが「阿波踊りにかける気持ち」。それが色気や品（しな）となって踊りに表れてくるとのことだ。

そんな賀代さんは、何よりも練習が好き。「練習で、みんなの一体感を感じるときが一番うれしい」と笑顔で語



る。完成までの過程が楽しいからこそ、新しい発想が生まれる。それが「革命児」といわれる所以であろう。

高円寺に対しては「そろそろ徳島のコピーはやめて、オリジナルの方向性を見いだしてみたらどうでしょう。私が高円寺にいたら、とくに新しいことをしていると思います」とのこと。さすが革命児。それでもやはり「子どもたちには阿波踊りが徳島で生まれたことを伝えてほしいし、踊るからには一度は徳島に来てほしい」と話す。



徳島 阿波踊り三昧マップ

徳島市内の演舞場と、普段は目につかない阿波踊りオブジェを発見！
お盆の華やかな装いとは別世界の徳島をご覧ください！

★ 有料演舞場 ★ 無料演舞場 ★ 屋内演舞場

有料演舞場

1 市役所前演舞場



5 藍場浜演舞場



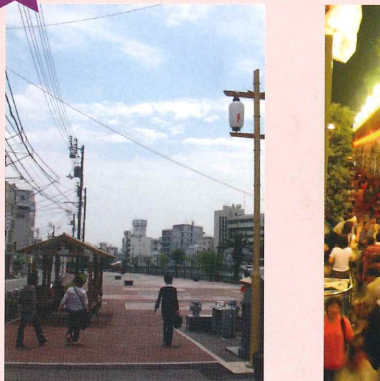
11 紺屋町演舞場



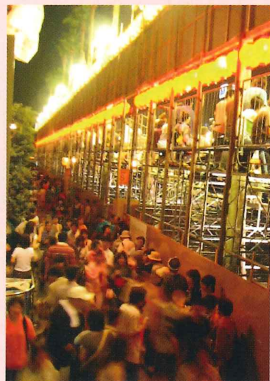
阿波踊り本番時の南内町演舞場



16 南内町演舞場



阿波踊り本番時の有料演舞場



佐古新橋



街頭までが高張提灯



12 鷹匠町



有名連を真近くで見ることができ、演舞場とは一味違う阿波踊りを体験できます

11 紺屋町 からくり時計



時間になるとからくり人形が踊り出す

街頭は笠のデザイン

高級料亭



踊り子さんに食事や飲み物を振舞ってくれます

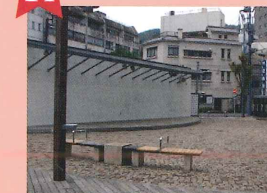
13 栄町



ビルの壁画



14 両国橋南おどり広場



南内町演舞場の下は鳴り物すべてのイラストが敷かれていました

「岡忠」



年間通して県外へ荷物の配送可。多いときは50個所にもなるそうです



佐古三番町にある阿波踊り用品専門店

徳島空港



踊り子ブロンズ像がお出迎え

駅周辺の阿波踊りオブジェ



17 アスティ徳島



4000人収容の大ホール。8月11日に前夜祭が行われ、お盆中も各連による踊り教室が開催されます

6 徳島県郷土文化会館



有名連の選抜大会が行われます

2 徳島市立文化センター



阿波踊り本番時の屋内演舞場



無料演舞場

15 両国本町演舞場



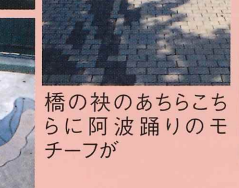
4 元町演舞場



阿波踊り本番時の無料演舞場



7 新町橋



橋の袂のあちらこちらに阿波踊りのモチーフが

支柱に映る踊り子がいいます



両国本町演舞場の花壇

8 新町広場



3 よんでん阿波おどり広場



9 東新町アーケード



履物専門店「こんど」では鼻緒を足に合わせて20分程度で調整してくれます



お盆中は栈敷下に隠れているので決して見る事のできないものを発見！

10 阿波おどり会館



毎日踊る阿波踊り
阿波の風所屬連員17名の舞台が毎日見られます

会館前のベンチ



阿波おどりミュージアム



全国に広がる阿波踊り

まだ「阿波」と呼ばれていたころの徳島で生まれたこの踊りは、21世紀の現代に至り、日本中の人々に楽しまれるものとなった。世界へ、そして未来へ——それぞれの地域で育ち始めた阿波踊りが、ますます発展することを期待している。

「東日本の雄」高円寺の発展を願って

阿波踊り情報誌『あわだま』編集長 南 和秀

今や、全国で80ヶ所とも90ヶ所ともいわれる国内開催の阿波踊り大会。とりわけ、首都圏の開催数の多さには目を見張るものがある。そのけん引役となったのは、半世紀の歴史を刻んだ「東京高円寺阿波おどり」であろう。

1957年、高円寺の先人たちは、四国のローカルな祭りを街の活性化のために取り入れた。江戸の文化が栄えるこの地へ阿波おどりを根づかせることに、先人たちが並々ならぬ努力を要したことは想像に難くない。徳島県人の一人として、頭が下がる思いだ。

JR高円寺駅近くの中央演舞場をはじめ、街の随所で見られる踊り子と観客が近接したライブ感。踊り子が観客へ満面の笑みを向けると、観客はすぐにうちわで扇ぎ返す。興行的な側面が強くなった今の徳島・阿波踊りには見られない、古き時代の阿波踊りのたたずまいをこの街は残している。そんな雰囲気は私にとっても気に入っている。阿波踊りは間違いなく「文化」だが、能や歌舞伎のように保存されるべきものではない。時代や地域に合わせて、その形が変化してもよいとも考えている。しかし、徳島が400年かけて育んできたスピリットだけは不変であってほしい。

阿波踊りは、その魅力ゆえ、一地方の芸能だったものが広く全国的に愛されるようになった。そんな中、阿波踊り文化をマスメディアが集まる都市から発信しているのが「東京高円寺阿波おどり」で、その影響力は大きい。もはや21世紀の阿波踊りの命運を左右する存在になっていることを、心にとどめてほしい。

今の社会に阿波踊りは必要だ。「楽しいから」といった娯楽的要素のほか、教育や福祉、産業、健康、地域社会との関連性など、阿波踊り文化にはさまざまな効用があることも少しずつ証明されてきている。多種多様な価値観をもつ人々が暮らす大都市には、もしかすると徳島以上に阿波踊りが不可欠なのかもしれない。どうか阿波踊りの本質を見失わず、新しい歴史を創造していただきたい。そして、東日本の雄として「東京高円寺阿波おどり」がますます発展されることを願ってやまない。



- 大阪府
ディオス北千里夏祭り阿波踊り大会（大阪府吹田市）
- 兵庫県
淡路島まつり（兵庫県洲本市）
長田潮汲み夏祭り（兵庫県神戸市）
- 岡山県
備前阿波踊り祭り（岡山県赤磐市）
- 長崎県
しまばらガマダス阿波踊り大会（長崎県島原市）



■北海道
全道阿波踊り大会（北海道）

■山形県
みちのく阿波踊り（山形県山形市）

- 埼玉県
入曾祭り（埼玉県狭山市）
入間川七夕祭り（埼玉県狭山市）
大宮夏まつり中山道まつり（埼玉県さいたま市）
北浦和阿波おどり大会（埼玉県さいたま市）
すかいロード祭り（埼玉県狭山市）
新座阿波踊り大会（埼玉県新座市）
東藤沢・狭山ヶ丘サンロード商店街阿波踊り（埼玉県入間市）
みさと阿波踊り（埼玉県三郷市）
南越谷阿波踊り（埼玉県越谷市）

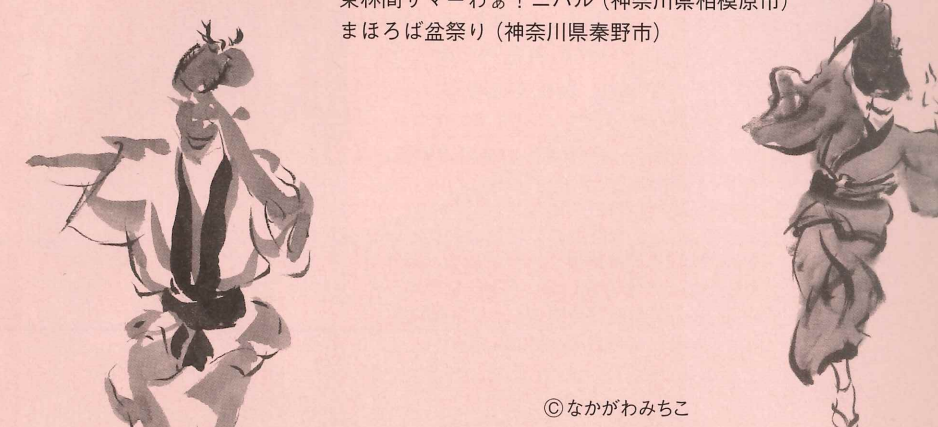
■山梨県
大月阿波踊り（山梨県大月市）

■静岡県
すその阿波おどり大会（静岡県裾野市）
はままつづくりフェスタ（静岡県浜松市）

■愛知県
江南阿波おどり大会（愛知県江南市）

- 徳島県
いけだ阿波おどり（徳島県三好郡）
市場阿波踊り大会（徳島県阿波市）
うだつのまちの阿波おどり（徳島県美馬市）
勝浦の阿波踊り（徳島県勝浦郡）
かもじま阿波踊り大会（徳島県吉野川市）
つるぎ町阿波踊り大会（徳島県美馬郡）
徳島阿波踊り（徳島県徳島市）
鳴門市阿波おどり大会（徳島県鳴門市）
姫神祭・阿波踊り競演会（徳島県海部郡）
三好町阿波踊り（徳島県三好郡）

- 東京都
板橋区民まつり（東京都板橋区）
稲城阿波おどり大会（東京都稲城市）
ウォーターフロント祭り（東京都中央区）
大塚阿波踊り（東京都豊島区）
踊れ西八夏まつり（東京都八王子市）
神楽坂まつり阿波踊り大会（東京都新宿区）
かせい阿波おどり（東京都中野区）
きたまち阿波踊り（東京都練馬区）
経堂まつり（東京都世田谷区）
久米川阿波おどり大会（東京都東村山市）
糀谷阿波おどり（東京都大田区）
小金井阿波おどり大会（東京都小金井市）
品川納涼祭（東京都品川区）
しもきたざわ阿波踊り（東京都世田谷区）
東京高円寺阿波おどり（東京都杉並区）
東京中目黒夏まつり（東京都目黒区）
中村橋阿波おどり（東京都練馬区）
なべよこ夏まつり（東京都中野区）
成増阿波おどり大会（東京都板橋区）
西大井阿波踊り（東京都品川区）
初台阿波踊り大会（東京都渋谷区）
ひばり祭（東京都西東京市）
ふれあいロード夏祭り（東京都清瀬市）
- 神奈川県
開成阿波おどり（神奈川県開成町）
神奈川大和阿波おどり（神奈川県大和市）
かわさき阿波おどり（神奈川県川崎市）
東林間サマーわぁ！ニバル（神奈川県相模原市）
まほろば盆祭り（神奈川県秦野市）



©なかがわみちこ

8月最終 週末の東京は、祭りの三つ巴!

Tokyo Summer Carnival

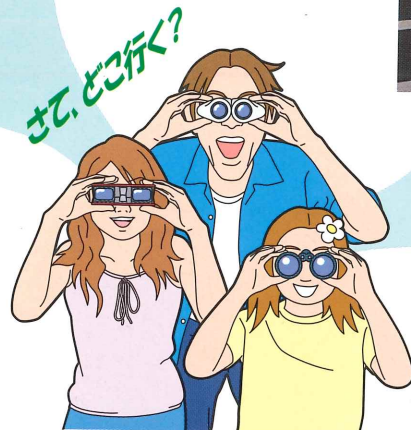
暑い東京の夏が、ますます熱く燃える週末があるのをご存知ですか? 神田祭(神田明神)、山王祭(日枝神社)、三社祭(浅草神社)が「江戸三大祭り」ならば、異国やほかの土地で生まれつつも、今、東京で急成長中のこちらは「東京三大祭り」。それはまさに懐大きい、東京のダイナミズムの象徴です。「東京三大祭り」は三つ巴祭りとなって、さらに地温をあげるべく晩夏の東京でヒートアップ中!



原宿表参道元氣祭スーパーよさこい

本場高知の協力のもと高知の優秀チームも参加し、本場の魅力さながらに繰り広げられる、名実ともに首都圏で最大のよさこい祭り。高知のよさこい祭りのよき伝統と、原宿表参道の斬新さが融合し、新しい魅力が楽しめます。

開催場所/東京都渋谷区(原宿表参道、明治神宮、代々木公園)
 開始年/2001(平成13)年
 観客数/約110万人(2005年)
 起源/よさこいを通じて日本人の元気を世界に発信したいという思いから、明治神宮への夏の奉納祭として立ち上がる。
 主催/原宿表参道元氣祭実行委員会
<http://www.yosakoi-harajuku.com/>



©田中 英樹

東京高円寺阿波おどり

阿波踊りは、徳島に400有余年前から続く郷土芸能。やがて時代を乗り越え、全国各地に地名を冠した阿波踊り大会が誕生しています。「西の徳島、東の高円寺」とうたわれるべく歴史を重ね、今や親子三代で参加、観覧する人も。

開催場所/東京都杉並区(JR高円寺駅、東京メトロ高円寺駅周辺)
 開始年/1957(昭和32)年
 観客数/約120万人(2005年)
 起源/「戦火に燃えたわが街ににぎわいを」という願いを込めて商店主たちが始める。踊りの心と技を本場徳島に倣い続け50周年!
 主催/NPO法人東京高円寺阿波おどり振興協会
<http://www.koenji-awadori.com/>



浅草サンバカーニバル

明治期からほかの町にはない新しい文化が取り入れられ、幅広いジャンルの音楽劇を生み出してきた浅草。浅草観光連盟も加わり、浅草サンバカーニバルは東京下町の夏を代表するお祭りのひとつにまで成長しました。

開催場所/東京都台東区(馬道通り~雷門通り)
 開始年/1981(昭和56)年
 観客数/約50万人(2005年)
 起源/昭和30年代後半、浅草に新しい文化を取り入れようという提案がきっかけとなり、浅草の商店連合会主体で誕生。
 主催/浅草サンバカーニバル実行委員会
<http://www.asakusa-samba.jp/>



5月中旬の東京神田祭を皮切りに、8月末の東京高円寺阿波おどりまで各地で夏祭りが毎週のように開催されています。さまざまな伝統と文化に触れてみませんか?



5月	中旬 (2006年は13~16日)	*★ 神田祭(2006年は陰暦) (東京都)	江戸総鎮守の祭り。本祭と陰祭が1年おきに開催される。 ◎ 神田明神 TEL 03-3254-0753 http://www.kandamyoujin.or.jp/
	15日	☆ 葵祭 (京都府)	わが国の祭りのうちで、もっとも優雅で古趣に富んだ祭りとして知られている。 ◎ 京都市観光協会 TEL 075-752-0227 http://www.kyokanko.or.jp/
	第3週末 (2006年は19~21日)	★ 三社祭 (東京都)	三人の神様を祀った浅草神社の祭りで、江戸随一の荒祭り。 ◎ 浅草神社 TEL 03-3844-1575 http://www.ematsuri.ne.jp/sanja/
6月	1~25日 (年によって差あり)	水郷潮来あやめ祭 (茨城県)	市内のアヤメ園に咲き乱れる500数種、100万株以上のアヤメを鑑賞。 ◎ 水郷潮来観光協会 TEL 0299-63-3154 http://www.e-tabi.org/
	9~16日 (例祭は毎年15日)	★ 日枝神社山王祭 (東京都)	太田道灌公が川越の山王宮を江戸城の守護神として再勧請・鎮祭。 ◎ 日枝神社 TEL 03-3581-2471 http://www.hiejinja.net/
	30日~7月2日	愛染まつり (大阪府)	593年に聖徳太子が開いた日本最古の夏祭りとして知られている。 ◎ 勝鬘院愛染堂 TEL 06-6779-5800 http://www.aizendo.com/
7月	1日~15日	博多祇園山笠 (福岡県)	「オッショイ」のかけ声で男たちが山を担ぎ、町を駆け巡る勇壮な祭り。 ◎ 櫛田神社 TEL 092-291-2951 http://www.welcome-fukuoka.or.jp/ (福岡観光コンベンションビューロー)
	1日~31日 (山笠は17日午前中)	*☆ 祇園祭 (京都府)	日本三大祭のひとつ。歴史があり豪華なうね期間が1ヶ月にわたる大規模な祭。 ◎ 京都市観光協会 TEL 075-752-0227 http://www.kyokanko.or.jp/
	24・25日	天神祭 (大阪府)	旧淀川に多くの船が行き交う船渡御、花火大会などによる火と水の祭典。 ◎ 大阪天満宮 TEL 06-6353-0025 http://www.tenjinsan.com/
	最終土曜日 (2006年は29日)	隅田川花火大会 (東京都)	江戸中期から行われる。名実ともに日本最大級の花火大会。 ◎ 隅田川花火大会実行委員会事務局 TEL 03-5246-1445 http://www.kanko-sumida.com/ (墨田区文化観光協会)
8月	2~7日	*◆ 青森ねぶた祭り (青森県)	「ラッセラー」のかけ声とともに巨大なねぶたとお囃子が練り歩く。 ◎ 青森観光コンベンション協会 TEL 017-723-7211 http://www.nebuta.or.jp/
	3~6日	◆ 秋田竿燈まつり (秋田県)	たくさんの提灯を下げた長い竿、竿燈を、手や肩、腰に乗せ、見せる妙技。 ◎ 秋田市竿燈まつり実行委員会 TEL 018-866-2112 http://www.kantou.gr.jp/
	第1土曜日 (2006年は5日)	江戸川区花火大会 市川市民納涼花火大会 (東京都/千葉県)	オープニングは10箇所から1,000発の花火が豪快に打ち上げられる。 ◎ 江戸川区花火大会実行委員会事務局 TEL 03-5662-0523、市川市民納涼花火大会実行委員会事務局 TEL 047-334-1111 http://www.ei-net.city.edogawa.tokyo.jp/event/event2.html (江戸川区花火大会実行委員会事務局)
	5~7日	山形花笠まつり (山形県)	山形県の花、紅花をあしらった笠を手に、かけ声とともに舞い踊る。 ◎ 山形県花笠協議会 TEL 023-642-8753 http://www.mountain-j.com/hanagasa/
	6~8日	◆ 仙台七夕まつり (宮城県)	江戸時代にはすでに催されていた歴史ある祭り。華麗な笹飾りが町を彩る。 ◎ 仙台七夕まつり協賛会(仙台商工会議所内) TEL 022-265-8181 http://www.sendaitanabata.com/
	9~12日	◇ よさこい祭り (高知県)	鳴子をもった踊り子が舞い踊り、装飾された地方車が特徴。 ◎ 高知市観光課 TEL 088-823-9457 http://www.city.kochi.kochi.jp/joho/hp/
	12~15日	◇ 阿波踊り (徳島県)	踊る阿呆に見る阿呆……400年続く祭り、阿波踊り発祥の地! ◎ 徳島市観光協会 TEL 088-622-4010、徳島新聞社事業部 TEL 088-655-7331 http://www.awadori-kaikan.jp/kankou/ 、 http://www.topics.or.jp/awadori/ (熱狂阿波踊り)
	第2土曜日 (2006年は12日)	東京湾大華火祭 (東京都)	レインボーブリッジなど東京湾の夜景を舞台に、百花繚乱の花火、尺玉、尺五寸玉を含めた見応え十分の花火大会。 ◎ 東京湾大華火祭実行委員会 TEL 03-3248-1561 (テブ案内) http://www.chuo-kanko.or.jp/ (中央区観光協会)
	15日前後	深川八幡まつり (東京都)	八幡宮の御鳳輦が渡御を行う本祭りは3年に一度。大小あわせて120数基の町神輿が出そろふ。 ◎ 富岡八幡宮 TEL 03-3642-1315 http://www.tomiokahachimangu.or.jp/
	第4土曜日 (2006年は26日)	全国花火競技大会(大曲の花火) (秋田県)	一流の花火師たちが集まり、明治からの歴史と伝統を技術と知識で競い合う。 ◎ 大曲商工会議所 TEL 0187-62-1262 http://www.obako.or.jp/kaigisho/
	26、27日	吉田の火祭り (山梨県)	富士浅間神社と諏訪神社の祭りで、富士山のお山じまいに当たる。 ◎ 富士吉田市役所富士山課 TEL 0555-22-1111 http://www.city.fujiyoshida.yamanashi.jp/
	最終土曜日 (2006年は26日)	浅草サンバカーニバル (東京都)	浅草に新しい文化を取り入れようという提案がきっかけとなり、サンバカーニバルが誕生。 ◎ 浅草サンバカーニバル実行委員会 TEL 03-5456-8531 http://asakusa-samba.jp/
	最終土、日曜日 (2006年は26、27日)	原宿表参道元氣祭スーパーよさこい (東京都)	高知のよさこいを通じて、日本人の元気を世界に発信。 ◎ 原宿表参道元氣祭実行委員会 TEL 03-5766-1320 http://www.yosakoi-harajuku.com/
	最終土、日曜日 (2006年は26、27日)	東京高円寺阿波おどり (東京都)	にぎわいのある街づくりを目指して、本場徳島に倣い続けて50年。東日本第一の阿波おどり ◎ NPO法人東京高円寺阿波おどり振興協会 TEL 03-3312-2728 http://www.koenji-awadori.com/

* 日本三大祭り ★ 江戸三大祭り ☆ 京都三大祭り ◆ 東北三大祭り ◇ 四国三大祭り

全国夏祭りカレンダー

NPO 法人東京高円寺阿波おどり振興協会 役員名簿

名誉会長	山田 宏					
顧問	石原 伸晃	佐藤 恒夫				
評議員	大西 直良	小山 智弘	富坂 弘昭			
理事長	武田 周吾					
副理事長	谷 幹男	大久保貢祐	林 紀元	伊丹 正信		
理事	阿部 孝喜	大出 吉一	川井 和子	河原 一	久保田潤一	
	城石 豊	杉谷 宗彦	富澤 武幸	中澤 恒夫	西川 道雄	
	平野 治彦	布澤 茂壽	藤巻 剛彦	宗像 和行	渡辺 孝司	
幹事	大須賀丈夫	阪井 勝徳	内藤 一夫			

歴代会長

◎東京阿波おどり振興協会

初代名誉会長 根津政茂

歴代会長 草柳勝治／小澤淳男／佐藤恒夫

◎高円寺阿波おどり連協会

歴代会長 中村和男／関根敏邦／杉谷宗彦／中村哲男／福島良二／伊丹正信（現）

編集後記

笑いあり、涙あり、怒りありの8ヶ月。50周年にふさわしい記念誌となったか不安ではありますが、多くの内容を織り込むことができたと思っています。この記念誌を通じて、携わる人々はもちろん、これから始める人にも高円寺阿波おどりの魅力と経緯が伝われば幸いです。

そして取材を通じ、多くの素晴らしい出会いと経験ができたこと、さらに徳島の郷土芸能である「阿波おどり」に深く感謝します。最後に資料を提供して下さった諸氏、ご協力いただいた皆さまに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

井田真由美、佐久間通子、杉谷ゆき絵

50周年記念誌編集委員

委員長 平野 治彦

副委員長 富澤 武幸

委員 池原 淳／井田真由美／内田 智子／加藤真紀子／佐久間通子
杉谷ゆき絵／鈴木 康夫／藤巻 剛彦

言葉に救われた。

言葉に背中を押された。

言葉に涙を流した。

言葉は、人を動かす。

私たちは信じている、

言葉のチカラを。



ジャーナリスト宣言。
朝日新聞

■朝日新聞ご購入のお申し込みは ●フリーコール 朝日が サンサン オハヨーサン 0120・33・0843 ●インターネット <http://www.asahi33.com/>
アサヒが サンサンドットコム

選ばれ続ける、日本の定番。



丸美屋食品(杉並区松庵1-15-18)は、地元「東京高円寺阿波おどり」を応援しています。

お得な食情報満載! <http://www.marumiya.co.jp>



SEKISUI HOUSE

積水ハウスは、 自然と共生する庭づくり 「5本の樹計画」を進めています。

3本は鳥のために、2本は蝶のために。積水ハウスは、地域の気候風土に適した「5本の樹」を植える庭づくりから、人と自然が共存する豊かな環境をつくり、潤いある景観を街中に広げていきます。

杉並区役所荻窪駅前事務所の上の階にごさいます。どうぞお気軽にお立ち寄りください。

祝50周年! 積水ハウスは「東京高円寺阿波おどり」を応援しています。

積水ハウス株式会社 東京北シャームエゾン支店
〒167-0051 東京都杉並区荻窪5-28-13(荻窪駅前ビル4F)
☎ 03 (5347) 2281 <http://www.sekisuihouse.co.jp/>

伊藤園

いいお茶は、 いい畑から。

人まかせにしないこと。
畑から育てること。
その時間と手間が
伊藤園だけの
おいしさをつくります。

自然そのまま 国産茶葉100%
さらにおいしく。

茶畑から
育てています。

伊藤園